

第十号書意·第二十三号書就意

書意

書就意

福岡大学之術文化部会書道部

下痢

石塚

動脈

＝卷頭言＝

闘いとは勝つことではない。

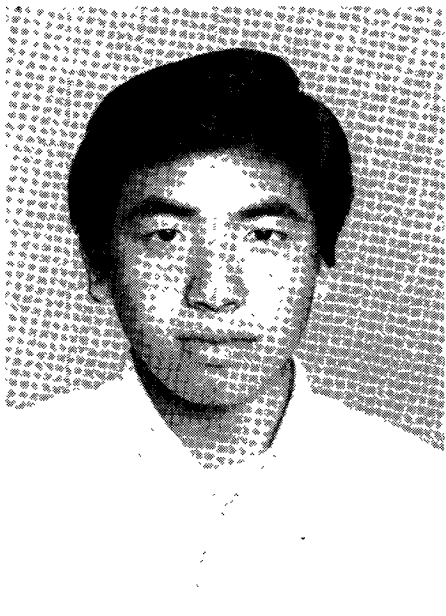
それは己に打ち克つ瞬間である。



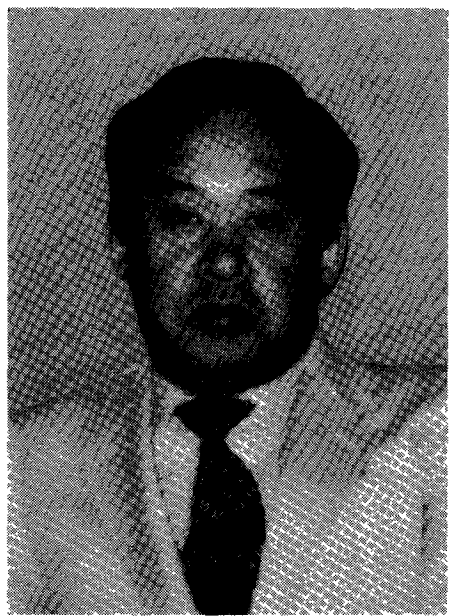
講師 赤木石掃



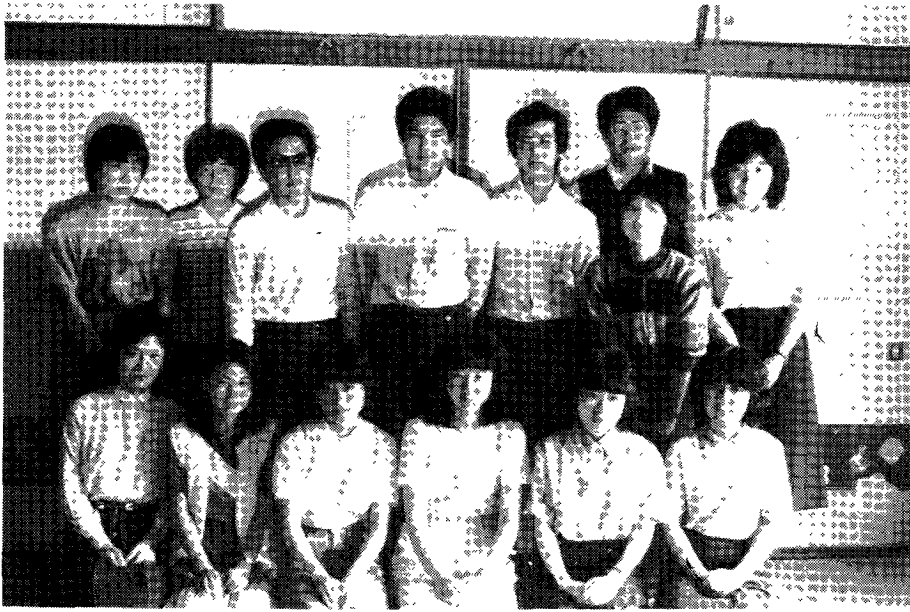
部長 小西高弘



幹事 志岐直樹



書心会会長 柴田一夫



四年生

後列左より 渡辺 手島 濱田 床嶋 城戸 丸田 児玉 崎坂

前列左より 梶島 安倍 松藤 天野 横山 佐藤



三年生

後列左より 志岐 梅崎 内田 柴田 満生 津村 山城 江里口 坪矢 小田部 中村

前列左より 平田 高橋 西口 高杉 箕原 松山 二村 鷲崎 大宮



二 年 生

後列左より 田原 江越 鍋藤 豊田 石橋
 前列左より 大場 貞苺 市川



一 年 生

後列左より 中川 四元 関 熊本
 前列左より 花田 藤代 横溝 林田 松原

目 次

赤木石掃先生書

巻 頭 言

目 次

序

特 別 寄 稿 欄

ク ラ ブ 活 動 と は

勸 誘

OB 諸君へ告ぐ

価値観の違い

クラブは社会の小集団

思いつくままに

不 失 花

サークル活動における教育のゆくえ

自 由 投 稿 欄

緊 張 感

夕日の思いで

さぼてん

説教ばんざい

浅 慮

時は移って

何となく、なんて

決 断

幼 心

大切にしたいもの

福岡大学に入学して

書道部部长

書道部講師

書心会会長

常任幹事会幹事長

書心会副会長

昭和四十六年度卒

昭和四十八年度卒

昭和五十六年度卒

商学部一年

人文学部四年

商学部三年

法学部四年

法学部三年

法学部一年

商学部三年

経済学部三年

商学部二年

工学部四年

法学部一年

小西高弘

赤木石掃

柴田一夫

桑原裕司

安河内克行

小野善広

三苦讓二

大家一之

松原敏宏

手島玲子

松山理恵

城戸信比古

柴田直人

熊本幸子

二村暁美

江里吉光

大場満恵

横山佳代子

花田智裕

1

4

6

6

7

8

9

10

10

11

13

13

13

14

14

14

15

16

16

17

17

18

18

独 語	法学部三年	大 宮 一	20
選 択	法学部二年	豊 田 隆 昭	20
ケジメある生き方	経済学部三年	満 生 憲 親	21
無 題	経済学部四年	枇 島 文 子	22
歩いて行きたい	経済学部二年	石 橋 正 隆	22
下宿にて	経済学部三年	小 田 部 二 三 典	23
道	法学部四年	崎 坂 真 弓	24
流 転	経済学部四年	濱 田 清 治	24
人 生 観	経済学部三年	津 村 文 彦	25
福大生になって	理学部一年	四 元 小 順	25
チャリンコ	工学部三年	山 城 邦 敬	26
擦れ違い	経済学部二年	市 川 初 江	26
友 達	経済学部一年	中 川 敦 江	27
男のロマン	経済学部三年	内 田 崇 之	28
大学生活	商学部三年	高 橋 福 代	29
私の履歴書	法学部四年	安 倍 三 紀 子	29
ある晴れた日のある考え	経済学部一年	古 嶋 雅 文	30
親の心子知らず	人文学部四年	児 玉 富 美	30
書道部入部	経済学部一年	林 田 一 男	32
目に青葉	商学部三年	高 杉 素 子	32
仲 間 (友)	経済学部三年	中 村 純 一 郎	33
礼儀について	人文学部二年	貞 刈 静 香	33
心を開いて	人文学部四年	渡 辺 泰 子	34
なぜか四年生	商学部四年	丸 田 俊 和	34
春に思うこと	法学部三年	鷲 崎 ゆ み 子	36
大学生になって	理学部一年	横 溝 賢 治	36
母への手紙	法学部三年	坪 矢 一 義	37

大学生になって	理学部一年	関	37
書道部に入って	法学部一年	藤代裕之	38
選 択	工学部三年	西口公恵	38
書道部に入部して	経済学部二年	安武和宏	40
あ・こ・が・れ	薬学部四年	天野仁子	40
煩惱(男)	商学部三年	志岐直樹	41
友 情	法学部三年	平田経子	42
理 解	薬学部四年	佐藤朋子	42
学生時代	工学部二年	江越健二	43
三 年 目	法学部三年	蓑原千枝	44
自 然	法学部二年	鍋藤利浩	44
幸 福	理学部四年	松藤美津子	45
時 間	法学部三年	梅崎孝夫	45
人間関係の論理	工学部四年	床嶋俊一	46
部員の一言			49
書道研究 日本の書道・三筆三蹟について			53
第二十二代年間行事			59
広 告 欄			62
福岡大学学術文化部会書道部規約			68
福岡大学学術文化部会書道部員名簿			71
福岡大学書心会規約			75
福岡大学書心会員名簿			78
昭和五十七年度・福岡大学書道部役員名簿			90
編集後記			

序

福岡大学書道部機関誌、第十一号書心、第二十三号荒鷲がここに
発刊できませんことは誠に慶びにたえません。

我、福岡大学書道部も今年で二十二年目を迎え、この二十二年
の間諸先輩方の教えを基に、常に前進、発展をしてまいりました。
また、書道部OB「書心会」も、組織的にもより強固となりました。
たことは、OB「書心会」の諸先輩方にとりましても、我々書道
部員にとりましても大変慶ばしいことであります。

この書心・荒鷲を発行することにより、諸先輩方と私共書道部
員がより一層深い絆で結ばれますなら幸いと存じます。

また、この書心・荒鷲を今後の活動の糧とし常に躍進されんこ
とを期待します。

第二十二代幹事

志岐直樹

第二十二代 基本方針

現在、我々書道部は、部員の自覚、認識の欠如により、活動のマンネリ化という大きな問題をかかえている。そこで書道部員が昇龍の気概をもって積極的に書道部に接することによって、部員相互の親睦融和をはかり、人間形成、書技向上を目的とし、進取の精神に富むサークルを目指す。

クラブ活動とは

$$\begin{array}{r} 382 \\ 337 \\ \hline 145 \\ 1216 \end{array}$$

書道部部长 小西高弘

$$\begin{array}{r} 16 \\ 32 \\ \hline 48 \\ 12 \\ 16 \\ 25 \\ 20 \\ 29 \\ \hline 6 \end{array}$$

誘

講師 赤木石掃

クラブとは何だったのでしょか。

仲間が集まって一つの目的を達すべく協力し、人間の向上をめざし愛し合う仲間共同体であったのではなかったでしょうか。ところがクラブが一つの組織体として整備されてくると、だんだんと本来の目的とは違つて組織がひとり歩きを始め、仲間の一人一人が自由で平等な活動を行う場を奪い、組織の枠内にはめこんでしまつていのではないか。大学のクラブは、「社会の予備校」ではないはずである。学生諸君は大学の大衆化とともに墮落し始めたのではないか。

そもそも大学の大衆化とは学びたい青年に大学の門を解放しようとしたのだが、大衆化された大学と学生が学ぶという大学の原点を忘れ、無為に過ごしているところに問題があろう。お互いが原点を忘れてしまつては救いようがないではないか。

クラブは仲間が研鑽してその本来の目的のために日夜活動し努力してこそ、真意が認められるのではないのか。学生諸君がクラブで真剣に学んだことを社会に訴えることではないのか。学生としての真剣さと新鮮さに欠けていては社会人を引きつける魅力もなく、ましてや学生をひきつけるクラブの存続さえ疑われるであらう。

貴重な青春時代を生きる学生諸君は、自分と社会に厳しく問うべきではないか。現代の混迷した社会に学生の新鮮な息吹きをこそ、社会は待っているのではなからうか。ルネサンス、いでよ、といたい。

部が栄える為には先づ部員が多い方がいい。曾って、わが福大書道部も八十名をこえ、百名に近づこうとする勢で部員がふえつづけ、部がいかに栄えたかに見えた時があつた。

人間が多くなると練習する場所がない。止むなく幽霊部員も出来て、部の統制がきかなくなる。だから部活動の方針やら、目標が全員に徹底しなくなる。そして部全体の活動がバラバラになる。こうなることは決して書道部が健全に栄えたことにはならない。誰の責任でもない。稽古する場所がなくて、人がはみ出したのだから、うれしいのやら悲しいのやらわからない。それで部員の勧誘をしないことにした年があつた。

ある先輩が私の家に遊びにきてこう言つた。自分が書道部には入つたのは、書道部が勧誘しなかつたからだ。どの部も勧誘合戦のさ中、書道部は勧誘したくない。「入りたい人は入れ」と言わんばかりに知らん顔をしている。それが気に入つたので、あとでわざわざ部室に行つて「書道部に入らせて下さい」と頼んで入らせてもらった。ところ言うのである。

最近勧誘はやりである。先日は電話で砂糖を買わんと、しつこく勧誘されたから「そんなに儲けるのなら、ワシが金を貸してやるからお前が沢山買つて儲けろ」と、どなってやつた。

勧誘とは字の如く、さそつて、すすめることだ。だまして誘う人も居れば心の底から、いいことだとさそう人もいる。

赤の他人に書道のよさを、心を打ち明けて紹介するのに利害はない。本当にたのしいからやってごらんなさいと言える人は幸せな人だ。

又その誠意に感動し、その人の誘いに乗って、又とない大学生活を、よき友と送ることの出来る人も、きつと幸せな人だと思う。宗教家が神の心を説き、同じ道に生きる人助けをすること以上に、書道の紹介をするのはむづかしいことだと思ふ。吾々はそのような価値のある勧誘に誇りを持つべきだと思ふ。

私が書道の紹介を福大にし始めて、二十年になった。薄学非才のこの身で、よくもまあ二十年間、雇ってくれたものだ。私はこの一年間だけ力一杯やろうと決心して、その一年、一年が二十四続いただけの話だと思つている。来年は、私は役に立たないかも知れない。せめてこの一年一生懸命にやってみようと思つて二十年続いたのだ。役に立たなくなつたから、今年の三月は、書道部の幹部諸公は依頼にこないだろうと思つていたら、又お出でになった。おまけに今年も、OB会、会長の柴田君が安河内克行君と高倉潔君をつれて、私の修猷館高校の停年退職祝いの記念品まで届けに来てくれた。感激のほかはない。私はこれからも、一年間で役に立たなくなることのないよう、書道の紹介を福大の諸君にしようと思つてあらたにした次第だ。

OB諸君へ告ぐ

書心会々長 柴田 一夫

OBとは書心会員とイコールとは言えない。なぜなら、OB、OGは

書道部の卒業生であるが、全員が書心会員でない事に残念でなりません。

書心会と言うまでもなく親睦団体であり、任意の会であるので人会、退会は自由です。しかしながら大学生活四年の集大成は卒業してからの書心会の活動ではないでしょうか。しかしながら書心会に入つて目に見える利益は得られないでしょう。利益を目的にしているOBは書心会に人會していただく必要はありません。書心会の目的は会員同志の親睦であり、書道部への援助(特に金品)の外はないわけです。

書道部創立二十余年で卒業生の数も二百余名となりましたが書心会に名をつらねている会員は百四十名にすぎません。

二年前の総会に於いて出席者に検討していただきましたように幽霊会員(名前だけはつらねているが活動は一切しない上、会費は勿論払わない)が増え善良な会員から集めたわずかな浄財が会員への通信費(勿論幽霊会員にも出す)と消え、書道部への援助が出来なくなり書心会の方向付けの転機となりました。

そこで会員としてとどまるか、退会するか、御意見を一人一人おたずねし、本当に書心会活動をしようとする人のみに残っていただき、一から出発したはずでした。しかしながら、今日現在会費の未納者五七名総額三万二千元となっています。

未納、滞納の理由はいろいろあります。例えば、送金するのがめんどろだ。つい忘れていた、だれか取りに来てくれないか、等々理由をつければきりがあります。要するに書心会員としての自覚に欠け色々理由をこじつけているにすぎません。

会員諸君からの会費の支出はすでに御存知のように通信費と書道部への援助の二つに分けられます。

通信費は書心会員でありますからには、全員に連絡しており、一定の費用は容赦なくかかり、未納が続出すると書道部への援助がそれだけ減り充分な支援が出来ません。

書心会は福大書道部の発展を祈り、書心会で出来る事は会員皆なで育てていこうではありませんか。

「自分一人ぐらい」という考えは捨て書道部百年の計は我々書心会と書道の皆様にかかっていると云っても過言ではありません。

目先の欲にこだわらず、書道部、書心会の発展に御協力の程お願い申し上げます。

「価値観の違ひ」

常任幹事会幹事長 桑原祐司

現代社会において「価値観は多様化した」とよく言われますが、私は果して価値観が多様化したのかと、疑問を抱くことがあります。

価値観とは、読んで字の如く万物の価値の観方・とらえ方であります。経済学では、価値というものを考える場合に、量的な問題（水や空気の価値とダイヤモンドの価値等）や需要と供給の関係などがありますが、価値観については、効用という言葉が使われています。効用とは「消費者が、財やサービスを使うことから得る満足。」と定義がなされており、これは、消費者がある商品がある金額で購入し、その商品を使用していくことによって、消費者が満足感をおぼえる事です。そこでもしその満足感が金額以上のものであれば消費者は又その商品を購入したくなるで

あろうし、消費者にとってその商品が、金額以下の満足感しか与えなければ、消費者は次回からその商品を買うことはないという現象が当然起ってくることとなります。

経済学的に商品という言葉を出した為に、誤解が生じたかもしれませんが、この商品には、自然とか机・イスなど物体はもちろん、文化芸術人間の情緒、つまり心、又、それによって働く言動や行動などあらゆるものを含みます。そしてその価値は、金額などでは測りしれないものがあるわけです。

そこで問題となっている価値観の多様化・違いという点について考えるならば、価値観の違いは、あらゆる条件の違いや変化によって作り出されるものと考えられます。つまり生活環境・考え方が同一、又類似している場合には、まず価値観の多様化・違いは生じないでしょう。しかしその条件に反する場合は、その多様化・違いは、必然的に生じることとなるのです。要するに価値観は、人間自身の多様化・違いによって様々な形体をもつことになると思われれます。

我々は、それぞれ違った生活環境又考え方を持っており、そして個々の価値観によって物事を判断し、行動しています。しかし大学という社会より期待される場、ましてサークル活動を行なう我々は、特殊性の追求を為すことによって人格の淘汰を凶ろうとする目的を持ってサークル員がまとまり、より発展的な活動を行なわなければなりません。この小社会の中では、価値観に対するある程度の統一が必要となる訳ですが、これは先に述べた条件が類似してきたからだと言えます。しかしより発展的な活動を行なう為には、個々の価値観をぶつけ切磋琢磨することが大切です。サークルは、このような人と人とのふれあいが、なされる素

晴しい環境であります。私は、このサークル活動を行なうものとして今後より精進を重ねるつもりです。書道部の各役員諸氏も、学術文化部会の中で雄として活躍しているすばらしいこの書道部で、切磋琢磨し、より発展させて頂きたいと思ひます。

「クラブは社会の小集団」

昭和三十九年度卒 安河内 克 行

人間は本来孤立しては生きられません。他人と接し、他人と協力して何事かをなし、精神的物流的交流があつてこそ、生きがいを得られます。本質的に人間は社会的動物なのです。「私はそうではない。大勢でいるよりも、ひとりで本を読んだり、音楽を聞いていた方が楽しめる」という人がいるかも知れません。しかし、そうした孤独な楽しみが楽しみでありうるのは、求めればいつまでも他の人間との交流が得られるという保障があるからでしょう。完全なる孤独に人間は耐えられるものではない。その証拠に、あのロビンソン・クルソーを見てください。彼はもともと孤独を愛する傾向が強かった人物、その傾向があつたからこそ、祖国イギリスの愛情あふれた暖かな家庭をふりすて、ロマンと冒険を求め海へと出かけたのです。それが、船が難破して無人島でただひとり生きること余儀なくされると、やはり求めるのは仲間との交流でした。オームに言葉を教えて話しをしたり、助けた人喰人種に食べられそうな危険をおかしながら共同生活を営みます。ですから人間は、ひとりでは生きられないので、もし、それを試みれば、飢えや渇き以前に、

まず精神的に参ってしまうものだといふあの小説のテーマは洋の東西を問わず、人間存在の根本をついた真実であるといえましよう。

クラブ活動も私は、社会生活を行う上での人間同志のふれ合いを学ぶところだと考えています。ただそこに「書道というものが仲介者の役目をしていてのではないかと思つてゐるのです。ただし、そこで書道部に入室された皆さんが、人間同志のふれ合いだけを大切にただけでは、書道部に入った甲斐がありません。書道部に入ったからには、なんとかして自分を表現し、自分の欲求（きれいな字が書きたい、展覧会に出したい等）を実現しようと努力しなければならぬと思ひます。努力するからこそ人間なのです。

いま、ふたつのことを申し上げました。人間は孤独では生きられないこと。そして自己実現の欲求と努力があつてこそ、人間は人間でありうるのだと――

このふたつは、実は、同じ命題の異つた側面なのです。あなた方は、書道部という小さな集団から社会という大きな集団へとあとわずかで旅立たねばならないのです。つまり、社会の中で自己実現を計ること――それが、人間に人間らしい生き方と満足感を与えてくれるのです。書道部で頑張つたことが、社会に出て「労働」つまり社会の中で働くことに必ず役立つと思つてゐるのです。

現在よく就職でクラブ活動経験者という条件がついてくるのを耳にします。これは、今書きました様に集団の中の個人はいかにすべきかを知らず知らずのうちに身につけておりより良い社会人になつた人が多いからです。あなたも是非四年間書道部で頑張つて、その後、福大書道部「書心会」に人会されることをおすすめします。

思いつくままに

昭和四十六年度卒 小野善広

月日の経つのは早いと言いますが、卒業して十年過ぎました。先日、学校に行きますと正門から両側につつじが咲いていました。小雨が降っていて、とても素晴らしい眺めでした。在学中には、それ程気にも留めなかった光景でしたが、久し振りに見た校庭のつつじが、こんなに素晴らしいものだとは思っていませんでした。

会社に入り立ての頃に、先輩や上司から、「お前は、大学では何かクラブに入っていたのか」とよく聞かれたものです。「書道部です。」と答えると大半の人は、驚きの表情をし、それ以降は何かあるとよく書かされたものです。そんな時、多少なりとも優越感を持っていたのですが、しかし、近頃では、それも殆んどなくなりました。恥かしいことですが、筆を持つのが怖いのです。もう何年も書いたことが無いのですが、時折思いきり書いてみたいと思うのです。しかし、筆の代りに水割りのグラスを持ってある次第です。「継続は力なり」という言葉がありますが、本当に難しいものだと痛感しています。

最近、多くの人と話しをする機会が増えましたが、その話しの中には、「近々、同窓会があり、何年か振りに友達に会える。」といった話題をよく耳にします。どんなに月日が流れようと昔の仲間^{……}に会えば、気持だけはタイムマシンに乗って過去に戻るからでしょう。これがクラブの仲間であればなおさらのことです。遠慮や見栄は、この仲間には通用しないのです。楽しいことも苦しいことも同じように経験して来たからです。

時代はどんなに変わっても、書道部で育った仲間は、大切にしたいものです。

「不^{うせ}失^{ざる}花^{はな}」

昭和四十八年度卒 三苦讓 二一

先日、原稿依頼の連絡を受け、正直なところ、困惑しています。先輩諸氏をさしおいて文章を書くということは、本当に心苦しいことですが、卒業後の、私の書に対する気持ちを書き記したいと思います。

今年三十歳の私は、実際、仕事に追われ、時間に追われる多忙な毎日を送り、書道に打ちこめる時間はほとんどありません。どうかして、時間を捻出して、書道の勉強の時間に充てたいと思っても、思うように時間が取れません。しかし、書道は忘れられず、また自分には書道しかない、暇を見つけて書く時間の楽しいことと言ったら、他にたとえようがありません。書道を始めたら、時間の経つのが速いこと、速いこと……。アツと言う間に夜中の十二時を過ぎ、気付いた時は、二時、三時ということもしばしばあります。それでも、眠気よりも、好きな書道が出来た喜びや充実感が私を包み込みます。この時は、至上の宝を得た気持ちです。

世阿弥の『風姿花伝』に「不^{うせざる}失^{はな}花」という言葉が頻繁に登場します。人は自然の条理として、年を取り、老いに向うに従って、若い頃の力強さや輝きが失われていきます。もがいても、取り戻せないのが若さです。しかし、その反面、若い頃には見られなかった粘り強さや、キラリとした輝きではないが優しさや暖かさが秘めた燦^{きら}銀のような輝きは、人生

の荒波に揉まれ、それを越えた人でなければ放てません。精神の鍛錬によって「不失花」となるように、書道においても、練習を重ね、自己錬磨しながら、書の奥義に一步でも近づきたいと思ひます。

暇は自分で創り出すもの、漫然と一生を送るのではなく、寸暇を惜しんで、自分の好きな書の道を進みたいと思っています。

サークル活動における教育のゆくえ

昭和五十六年度卒 大家 一之

サークル活動は文部行政のなかで「特別活動」となっているが、これはGHQによって「自由研究」として出発したものであり、又、学習指導要領におけるサークル活動の目的は体力の向上、友人との共通の感情をもつ手段であるのだそうだ。

本格的なサークル活動における教育は中学校から始まる。中学校時代は、程んどが経験していると思うが、「必修クラブ」なるものにはいられねばならない。これは、普通のサークル活動と比べるとどのような違いがあるか。まず第一に教師から強制されていること。第二に授業の一つとして取り扱われている以上の二点であろうと思う。これは高校時代になっても同じことである。かといって一般のサークル活動に違ふところがあるかといえはそうでもない。やはり、中・高のサークル活動も教師からの指導をうけ、教師のもとで活動するサークルが少なくない。

しかし、中学から高校まで六年間ひとつのサークルにいた生徒は、ここで終生の友を見つけるといふし、人間的にも大きく成長するといふ。

ここ最近「校内暴力」が話題になっているが、それに名を連ねる程んどの学校がサークル活動に熱中する生徒が少ないと聞く、サークルに夢中になると自然と興味がわいてくる。そして記録をのぼそう、うまくなると向上心が生まれてくる。そういう生徒が多い学校はやはり校内暴力も少ないらしい。そういう意味では、サークル活動というのは我々にとっては重要な位置を示しているように感じる。

しかし大学のサークル活動は前述の活動とは意味を異にするところがある。授業の一つとしても取り扱われず、そうかといって教師もいないサークルを運営し、やってみるのはそこに所属する部員一人一人である。自分が選び好んで所属したサークルである程度の規制を除いては、自分のやりたいようにやれるサークルなんて中・高の時にはなかったらう。

それだから、むずかしい。いろいろな事を考え、いろいろなことを思い悩む、そのくり返しである。

本当に四年間サークル活動をやったといえる自分を作るのは他の何の力でもない自分の力一つである。

サークル活動の原点は「自由研究」。一人一人がいろいろな事を前向きに話したり、悩んだりするようなサークルになれば、自然と楽しくなり自分も成長することになる。

大学のサークルは大学生が運営し大学生の手でやっています。中・高のサークルとは一味も二味も違うサークルを作れるはずだと思います。現在の大学生全体ましてや若者全体のムードがシラケているとしても書道部だけはそうあってほしくありません。大学生らしい闊達で生き生きとした人間と人間のふれあいのあるサークル活動を望み、これからの書道部の発展を祈り、我々も卒業生として精一杯の努力をします。

あいうえお 覚えたときから 積文館

本

中央外商部	761-3831	新天町店	781-2991
福岡市美術館 ブックショップ	714-2025	てんちか店	721-6395
中洲店	271-7531	西新岩田屋店	851-8448
博多駅前店	441-6425	朝日街店	441-6427
香椎駅前店	661-4621	グランドせきぶん	671-2981
森林都市店	宗像2-3562	佐賀店	24-4314
佐賀デイトス店	23-7155	西デイトス店	23-2608
新有楽町ビル店	214-4946	丸の内店	214-6886
新宿西口店	343-4946	荻窪店	393-2101

新刊・書籍・雑誌・教科書・参考書

積文館書店

本社 福岡市中央区大手門2丁目1-5 ☎ 721-0335

緊張感

商学部 一年 松原敏宏

書道をしている時の緊張感が僕は好きです。この緊張感には入試の時のような焦りや不安というものがなく集中できるのである。その点においては気楽なようであるが実はかなり疲れるものである。しかし途中で止めたとはまったく思わないのであるから自分でも不思議だ。

大体において自分という人間は集中力が極端に欠けるのである。受験まえの大事な時期の授業中でも、始まって十分もたないうちからあと四十分などと時計ばかり気にして先生の話など上の空で帰宅して遊びに行くことや昼は何を食べようかと下らないことを考えていたのです。

しかしこんな自分にも緊張し至極集中できるものが書道なのです。二時間の練習時間が大変短かく感じられるのです。高校時代も錬成会で何時間も書いたことがあります。自分では緊張集中し最後までやれたと思いません。たしかに疲れはしましたが、いやなものでは決してありませんでした。

この唯一僕が緊張し集中できる書道の時間を大切に大学生活を有意義に価値あるものとすべく毎日を送ろうと、ここに誓約したく思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

夕日の想い出

人文学部 四年 手島玲子

時折、きれいな夕日を目にすることがあります。そんな時、無感量になつて見とれてしまいます。私にとって、きれいな夕日は浪人時代の想い出のすべてでもあります。あれからもう五年近くたってしまったなんて嘘のような気がします。

あの頃、みんな丸山の丘から見た夕日は、ほんとうにほんとうにきれいでした。真っ赤に燃えながら落ちていく夕日を見ようと、毎日毎日みんなで百段近くの石段を上ったものでした。私達は、黙って思い思いに沈んでいく夕日を見ました。あの夕日をどう表現したらいいのでしょうか。私は、言いようのない熱い想いで胸がいっぱいでした。おそらく、みんなも同じ想いで夕日を見ていたに違いありません。私達の心は、夕日の前でひとつだったように思います。

今、私は書道部の四年生。三年間の間には実にいろんな事がありました。一年の時の私、二年の時の私、三年の時の私。書道部のみんなと過ごした想い出がたくさんあります。そのどれもが、私にとっては大切なものばかりです。

でも、あの真っ赤な夕日の前に、それらのものはどうしてもかき消されてしまう今日この頃です。私の中にもうひとりの私を感じます。そして、最近、もうひとりの私がかんなんにもいとおしく感じられるのはなぜでしょう。

さぼてん

商学部 三年 松山 理恵

彼女と知り合って、六年目になります。私たちは高校時代を愉快に過ごした仲間でした。いつも四人で、本当に無邪気でした。今の私には、ホントニなつかしい高校時代です。あの頃私たちは、毎日バカみたいに叫びまくって、『あーでもない。こーでもない。』とひっきりなしに話したものです。学校から駅までの間に話したことといえば、結婚、恋愛から先生の事、そして今思えばどうでもいいような、芸能人の心配など……。彼女と私は金曜日になると当然のように本屋さんに立ち寄りました。追いかけてマンガ。三年間、とにかくいつも一緒でした。そんな彼女とも、大学になって、離れてしまい、お互いに別々の道を進むようになりました。いつも一緒にいないのに私の気持ちは前と少しも変わってません。今まで彼女と共に、笑い、怒り、涙しました。

最近、久しぶりに彼女と会って、幼なかった自分たちが、徐々に変わってきたなとつくづく感じました。彼女はだんだんと美しい女性になっています。長い年月を経て、私たちは本当に良き友人になってきたと思っています。きっと一生付き合っている友だと信じてます。彼女に、嫉妬したことさえある私が、本当に心から素直に言えるんです。これから先離れていても、彼女がいつも側にいると。

現在の私にとって、一番身近に感じるトモダチと言えるかもしれませ

説教ばんざい

法学部 四年 城戸 信比古

「説教」という言葉からどのような感じを受けるだろうか。「説教」には本来、説き悟すとか説得するという意味があるが、何となく嫌な感じ、説教されるのは悪い事、できる事なら説教などされたくないという感じがするのではないだろうか。

この事は現代の家庭や学校やサークルに於いて、親が子に、先生が生徒に、先輩が後輩に説教する事が少なくなった事を示している。(これは青少年の非行問題の原因とも関係がある様に思う)

あまり説教されたことの無い者がたまに説教されると、素直に受け入れずに理性よりも感情の方が勝るようになる。そうなれば説教する側にしてみれば良かれと思っただけの自信と甘えを見逃さない目が必要である。側も感情的になり、相手のあら探しに終わる様ではどうしようもない。つまり説教する方もそれだけの自信と甘えを見逃さない目が必要であるし、される方も素直に受け入れる気構えが必要になってくる。そうは言っても説教されている者がそんな気構えなど持てる余裕があるはずもない。せめて、説教をされないような要領を身につけるより、説教された事を冷静になった時に考え直してみるようにする事が大切である。

ところで、この三年間の大学生活を思い起してみれば、まず最初に、「説教」をした事された事を思い出す。「説教」によって自分自身が戒められ、全体にピリッとした緊張感が作られていた様に思う。

「説教」するのはとても難しい。

「せん
浅慮
」

法学部 三年 柴田直人

最近、ぼんやりと考えることが多くなった。「考える」いや「思う」そう思うことが多くなった。何もしていないでいると自分自身がとても不安で何かすることは出来ないかと落ちつかない。

逆に、身体を動かしていると、いらいらして気が休まらない。かなり情緒不安定である。俺にとって今一番、重要なことは仲間との空間、二人で、三人で、四人で、いろいろと考える、「いろいろ」いろんな事、学生に許されたこの多くの時間、するべきことは今しか考えることのできないあらゆることに思いを巡らすこと、そして試みるための努力、それを仲間と一緒に出来るならそれこそが今の幸せ至高の思い。それから手伝い、もし人の一助になれば、そしてそれが自分自身に帰するならこれ以上、言うことはない。

しかしながら、見願りを期待して手伝うつもりはない。第三者から見ても自分のやっていることがそう取られるならこれほど悲しいことはない。俺、今二十才、人から得る術を知らず、人に与える力もない、けれども何かをつかむため疲れ果てても進みたい。

ふと気がつけば、自分という名の生き物の心の狭さ、なんと寂しい、つきつめれば深く悩みを語れる相手もなく、相談してくれる人もなく、孤独な自分に気づく、寂しく、はかなき自分という名の生き物の道

直人

トヨタレンタカーだから安心です！
よいクルマ・よいサービス



トヨタレンタリース福岡
福大前営業所

☎801-1234

総合結婚式場
和室・洋室宴会場
同総会・コンパ・歓迎会

ご予算に応じて承ります
随時ご相談下さい。

中国料理 平和楼

本店 福岡市中央区天神2丁目6(新天町大通) TEL771-4141(代表)
大濠店 福岡市中央区大濠公園2区(西公園バス停前) TEL761-7252(代表)
岩田屋店 岩田屋新館B2メトロドグルメ内

時は移って

法学部 一年 熊本幸子

福大生となって早々と一カ月過ぎてしまったが、やはりこの期間のでき事で一番大きな事といえば私が書道部に入学したことである。

一カ月前には、遠くに行ってしまう友人を見送りながら思ったものである。高校生のままでいたいって。大学生になんかなりたくないって。案の定、大学の講義が始まって二、三日たっても友人ができないものだから、大学がつまらなくて、ただ疲れるだけのものだと思ってきた。そして自分が無気力になってくるのがわかった。

という具合の時に書道部に勧誘された。何度も言ってしまったことだが、この時私は書道部に入る気など全くなかった。理由は簡単である、書けないからだ。こんな私がどうして入学したかは先輩方の雰囲気だった。そして練習風景の厳格さが目に焼きついたことだった。書道部に連れてこられて、なんとなく気力を取り戻せたような気がした。だから、偶然にも私を勧誘して下さった先輩(どの先輩だったか覚えてないけど)に感謝の気持ちだ、今でも……。

私が書道部に入学したことを高校時代の友人に言うところ割は驚いて、その上笑う。自分でも一私と書道一釣り合ってるなんて思わない。けれども、それだからよけい今までになかったものを経験しようとする、知ろうとすることは喜ぶべき事だろうと思う。

最後に、私の気持ちを理解してくれる一割の友人が、一カ月たった最近やっと現れた。手紙にであったが、書かれてあった。途中下車せず

に最後までやり通そう!!”って。

何となく、なんて

商学部 三年 一村 暁 美

何となく時に流され、何となくここまですたどり着いてしまった私。

これから一体どうしてゆけばいいのかしらなんてふと考え込んでしまふ頃。

今の私は、何をしてもむしろ頼りなくて、もどかしく、何を考えても、思い巡らすばかりで、奥深い迷路にどんどん迷い込んでくばかり。

以前の私だったら、「何とかなるさ」なんて、時のたつのに任せていたのだけれど、そうもしてられない何か切迫したものが私のどこかに生きてきた。

「何となく」生きてきた自分にむち打ちたくて背伸びしようとしていくだけかもしれないけど、何かをしなればと、切実に感じている。

今までの自分を何とかしたくて、暗闇の中をただひたすら歩き続けようとしている私、はるか遠くに見える一筋の光に、私の全ての希望と祈りを託して。

今を精一杯に生き、流されることを忘れることができたなら、どんなにか素晴らしい人生になることだろう。

「何となく」なんて、私に似合わないようになりたい。

決 断

経済学部 三年 江里口 吉 光

長い人生で、決断をくださなければならぬ場合が幾度かある。私は現在、この福岡大学にいるわけであるが、ここへ進学したことも一つの決断であった。高校までの知識、親兄弟の意見をもとに精一杯考え、この道を選び現在にいたっている。その時は、確実だと思っていたのに、時がたてば、ふらついている自分をみる。現在の生活をみて、これじゃだめだと思うのです。

しかし、反面思うのですが、人間は本来、なまけ者ではないかと。あまりのんびりしていると何をやる気もおこらない。熱帯に住んでいる人が、四季のある所に住んでいる人々に比べ、どこかのんびり感じるように、人間にはやはり、刺激がないといけないようだ。

こう考え、自分も新たな刺激をもとめ生活を変えてみることにした。読書もその一つであるが、高校まではそう読んだこともなかったのに、自分の考えをしっかりとさせなくてはと思つての、少しばかりの怠慢な日常生活への抵抗である。また朝、早起きしてみるのもよい。

しかし、こうしたい、ああしたいと考えているだけでは何一つ実現しない。考えるだけではそれこそ“絵に書いた餅”でいつまでたっても自分のものになりはしない。要は実行することです。

このように、無意味だなど思う時間を少しづつでも減らして、新しい考えを実行に移していこうと思つているのです。そうしていくことが、新たな出発になりそうな気がして。

幼 な 心

商学部 二年 大 場 満 恵

今、私はこの原稿を書くにおいて、何を書こうかと、頭を痛めています。こんな時、いろいろな事が脳裏を襲う中、ほんの片隅に“幼ない頃の自分”が浮かんでくるものです。

「幼ない頃は、もっと素直になれた。人の優しささえも、そっと信じきれたさ……」

小学校時代、先生に作文を書くように言われたら、今のように頭を痛めていたでしょうか？自分が思うままを素直な気持ちで、すらすらと書いていたのでは、今の自分は、変に恰好をつけて書こうとしているから書けないのでは、そんな事を考えながらペンを動かして来ました。

ふっと 何もかも忘れてみたいと思つたことがありますか。

突然 童心に戻つて思いつ切り走り回つてみたいと思いませんか
誰の声も聞かず 知らない土地に立つて大声で叫んでみませんか

やっぱりできませんか？

残念だな あなたはやらないからだ

やろうとしたって？

じゃ やってみましたか？

私は 海と白砂がある限り

いつでもどこでも童心をとりもどして叫んでしまいます。

“素直な心”これは捨て去ってはならない心、私は、いつでも素直でありたい。

大切にしたいもの

工学部 四年 横山 佳代子

夢なしには、あまりにさびしい人生だと思ふ。夢を求めすぎると……あまりに遠くを見つめ、足もとの石ころにつまづきそうだ。だけど、私は夢をいつも見つめていたい。つまづいて、転んで、膝小僧に傷をつくっても、やっぱり、は、か遠くの夢に向かって進んでゆこう。

あまりのきつさに、座り込んでしまった。あまりの痛さに、泣きべそをかいた。そんな私をじっと見守る人々がいる。手をさしのべてくれる友がいる。時には、いっしょに泣いたことも、笑ったことも、むくれたこともある友だち。時には、けんかしたことも……そんな友だちに、めぐり合えたこと、とっても幸せだと思ふ。私の大事な宝ものだと思ふ。

私の夢の半分は、こんな友だちからの贈りものだと思う。だから、私はいつまでも夢を抱き続けたい。だから、私はいつまでも夢を抱き続けてゆける。だから、夢を大切にしたい。友だちからの、贈りものを……ほんとうにうそみたいです。何がかって、それは、私がもう四年生になったってこと。一年の頃、よく先輩方から言われた言葉、「四年なんてあつという間に過ぎてしまふ」今度は私も、みんなに言うんだろうな……。そして、それに付け加えたい言葉。人とのめぐり合いを大切にしてくださいね。そして、ひとつでいいから、何かに向きになって生きて下

さい。何かに熱中になっている人って、とっても輝いている人だと思うから……。

私もあと一年、そして、これからもずっとみんなに負けられないように、キラキラ光っている人でありたいな。

福岡大学に入学して

法学部 一年 花田 智裕

昭和五十七年三月に東福岡高校を卒業して、四月六日に福岡大学に入学した、入学したての頃は、大学のことについてあまりよく知らなかった。友達と相談したりしていた。

そして、ようやく大学というものに慣れて来て、書道部に入学した、また書道部にはいりたての頃も書道についてよくわからなかった、書道の経験はあまりなかったが、中学・高校とクラブ活動をやっていなかった。大学に入ったら、何かクラブに入り、一つのものに打ち込んでみようと思ひ書道部に入学した。

次に、大学の講義や学校生活については、初めは講義もしっかり聞いて頑張ろうと思つたが、いざ講義を聞いてみると退屈で面白くないので自分の決心は、すぐに崩れた。

学校生活においては、通学で自宅から学校まで少し時間がかかって疲れることもあるが、高校三年間同じように時間をかけて通学をすることができたのだから大学四年間もやれると心に決めて頑張りたい。

そして何よりも重要な事は、大学を四年間で終わらせることだと思ふ、

欠席を重ねて単位を落したり、自分の勉強不足で進級することができなくなったりすることは何が何でもやってはいけないと思う、もしそういうことをすれば、親にも迷惑がかかるし、自分にとってもあらゆる面で不利になるからである。

次に、書道部においては、やはり自分の字を美しくするためや書道という芸術を追求するのであるから、練習は絶対に欠くことのできないものであるから、さぼらず、練習に集中し早く展示会等に出品できるように字を書けるようになりたい、また他の面でも諸先輩方の指導を守り、はじめがあり、また楽しいサークル活動にしたいと思う。

最後に、やはり今まで書いて来たことを自分で守るには、何事にも負けないような精神力と健康が必要だと思うので、学校や家庭その他の所で心と体を鍛えて頑張りたいと思います、そして、たまには息抜をやってバランスのとれたサークル活動また学校生活を送って行きたいと思う。

タバコ・食料品・フィルム・DPE

長 商 店

福岡市城南区片江倉瀬戸バス停前 TEL (861) 7455

やきとり・炭火焼

源 氏

西区梅林457-8

TEL 864-4627

レコード
新時代

ロック・フォーク
ニュー・ミュージック
ジャズ・フュージョン
歌謡曲etc

RECORD LEASE
JOYFUL
(092)864-0379

リーススラムLP1枚100円より

★学生証・免許証等でOK!

↑東七隈

福大

2Fジョイフル
パチンコ

←茶山

→福大病院

↓七隈四ッ角

法学部 三年 大宮 一

法学部 二年 豊田隆昭

只今、午前一時……。空には星が一つも見あたらない曇空。時々、こうして夜の空を眺めている事があります。昼間は太陽の光の影に色褪せた星たちも夜は、我もの顔で輝きます。その輝きは星の生命なのでしょう、どんなに遠くにある星でも、どんなに小さな星であっても自分を見失わず輝き続けています。”誇らしげに……”

そして、ふと我にかえる……。大学生活も既に半分を消化してしまつた現在、自分の位置を考える。何かしら中途半端な自分がある。後悔の念にかられる。愚痴も数えきれない。けれども私はやっぱり甘えている。仲間に関りすぎている。知らず知らずのうちに我儘になつた自分に気づく。私は今迄、最高の贅沢をしてきた様だ。自分を顧み時、”冷めた私”がそこに居る。心の貧弱な私だ……。虚ろな目をした私と向い合った時、ふと問いかけてみる。”どうして寂しそうな目をしているの”……”どうして遠くを見つめているの”……、私の友を探しているの”……”その答えがこたまする。

人の心は、ペンキの様です。塗り変える事が簡単すぎて、最後には”真黒”になつてしまふのです。だから人は、いつも無地のキャンパスを持ち歩いているのかもしれない。そのキャンパスに、人の優しさや痛みが描く事が出来た時、私の虚ろな目は小さな星に似た輝きを得ることが出来るのでしょうか。

よいものとわるいものがあつた時、人はどちらを選ぶであろうか、やはりよいものを選ぶだろう。また、美しいものとそうでないもの場合も、やはり美しいものを選ぶであろう。

人が生きてゆく間には、いろいろと選択を強いられる時がおとづれるものだ。自分の人生の問題からショッピングにおいてなどさまざまな場合がある。そんな場合、人はどのようにしてものごとを決定するのであるうか。インスピレーションで決める場合もあれば、じっくりと納得するまで考える場合もあるものだ。しかし、どちらの場合も自分にとってよいもの、すばらしいものを選びようと努力するにちがいない。

いつだったであろうか、昔ルイヴィトンのバックのにせものが出回つたことがあつた。また、最近では五千円さつのにせものが出て世間をさわがせたものだ。どちらとも本物そっくりであつたと聞くが、いくらにいてもやはり本物にはかなわないものである。人生においてもそうである。自分の心にうそをつきながら生きていても、あとになって後悔する時が多いように思われる。だから人は本音で生きようとするが、時としてその本音も社会一般のたてまえにおしつぶされてしまふ時がある。それでも本音で生きようとする人間は、ひとり孤立してしまふ時があるものだ。

本音で生きたいと思う反面、社会の流れにさからいたくはないと思つている自分に、失望を感じつつも、生きていくからにはいろいろなもの

を見聞しながら、本当に美しいものすばらしいものをみつけてゆきたいと思う今日このごろである。

あの人がああ言ったからああしよう。この人がこう言ったからこうよう。それで自分の生き方があちらに引き、こちらに向く。それも一つの歩み方ではあるけれど、それでは本当の自分はどこにあるのか。ああとかこうとか、それぞれの人の思いでそれぞれに言われることは、それはそれでよい。大事なことは、それらのすべてに耳を傾け、そのなかで自分の生き方の知恵をたしかめ、だから自分はこうしようと考えることである。(PH P 昭和五十七年三月号より)

ケジメある生き方

経済学部 三年 満生 憲親

最近、ちまたで「ケジメのない人間が増えて来た。」という嘆きの声をよく聞く。確かに近頃の若者は、厳しさを失くした。かじれば甘いしるの出る様な世の中で、優雅に生活している。それがあたり前の様になつてきているのも事実だ。こんな風だから「自分に甘く、他人にも甘く」という様な「甘自甘他」(?)的な人間が増えてきているのだ。

今の若者は楽をしたがる。きつい事を避けたがる。先頃あった新入生勧誘週間で勧誘した男の大半は真っ先に「書道部は楽しいですか。きつくないですか。遊べますか。女はいますか。」という事を聞いた。私はそんな男には「どこのクラブも練習はきつい。けっして楽しいとは言えない。しかし、楽しいばかりでなく、苦しさの中に自分をぶつけ、自己

の限界に挑戦するのが男だよ。」と言った。相手の男はうなづくだけで、あとの話を聞かず帰っていった。男の部員が少ない事も頭にあって、かなり甘い言葉もかけたが、気が重かった。そうした男達と話していて気づいた事は、言葉使いを知らないという事だった。まったくと言っていい程、敬語を使わなかった。それはけっして彼らばかりではない。クラブ内でも言えるのではないか。どこの部を見ても、目上の人と話す時の態度、言葉使いがなっていない。「先輩と言っても同じ人間じゃないか。」としか感じていない。時の流れがそうさせてしまったのであろうか。

何かで読んだが「ケジメある生き方は、男女の違い、親と子の違い、大人と子供の違い、教師と生徒の違い等を認めて、素直に生きる事。時には突っ走り、対立もするが、要は素直に力の違いを認める事である。ケジメのない生き方は、人類みな兄弟、人間は法の下にみな平等である」という事で、一見高尚には見えるが、実は不正直な生き方である。「という事であった。何とも不正直な生き方の人間が多くなって来た事か。何にしる、この世に生きていく以上、何事に於いても「ケジメ」をつける習慣をつけてもらいたい。幸い、社会の縮図でもある大学の中の一サークル(書道部)にいますから……。

無題

経済学部 四年 椛島 文子

あれは、いつの頃だったろうか。

真暗の中、たった一人で自転車に乗り、寂しく静まりかえった道を行く少女の目に映ったのは、数えきれぬ程の小さな小さな明かり。その小さな明かり一つ一つに何故か、安らぎを感じ、とめどもなく涙が流れた。

日常の人間関係のわずらわしさは、我々に時として孤独を求めさせる。それなのに心のどこかに孤独を恐れ、恋しがり、人との接触を望む。しかし、どんな人間でも完全ではありえず、人間である以上、どこかに落

度や欠点があるものだ。だとしたら我々は毎日、自他とも欠点だらけの人間と付き合っ暮らしていることになる。他人は自分の鏡である。という言葉は我々の心を的確に表わしている。つまり、他人がどう見える

かで自分の心が映し出されるものだ。我々が他人を許容し、信じている時、他人の顔付きはおだやかで親しみに充ちている。しかし、一度、疑いだしたらさいご、他人の表情は強張り、冷たく見えてくるようになる。だからといって人間は孤独で暮らしていけるものもなく、いくら見栄を張っても心のどこかで他人に依存し、甘えられる相手を待ち望んでいる。

人間関係においてお互いに心の中では、相手の欠点を知っていてもそれを口にしなすむ程に相手の美点を認めあえるような人と巡り会えたら、なんと素晴らしいことだろう。なぜなら、その基礎には愛と信頼があるだろうから。

歩いて行きたい

経済学部 二年 石橋 正隆

俺は今までいろいろな選択に迫られた。一本道を歩いても、いつか俺は岐路に立たされ、そこに立ち止まった。立ち止まって考えてばかりいて、時間が過ぎるばかりである。時には時間のないこともある。俺はいつも、その岐路を右に行ったり左に折れたり、ときには後もどりして別の道を探したりもした。自分の選んだ道を信じて歩いて行っても、それが行き止まりであったりもした。

今俺はなんとかしてこの道を歩いている。もしかしたらこの道は間違っているかもしれない。そしてまた立ち止まってしまうかもしれない。しかしいつまでも歩いて行きたい。たとえ間違っているとしても、どんなに遠くでも、道がデコボコでも、どんなに障害に出くわそうとも、俺は俺の信じる道を歩いて行きたい。そして死ぬまで、俺の信じる物を捜して歩いて行きたい。楽しく旅をしながら。

強く歩いて行きたい

はつらつと歩いて行きたい

太く歩いて行きたい

自我を持って歩いて行きたい

すべての人間を愛して歩いて行きたい

「下宿にて……」

経済学部 三年 小田部 一二三典

日が昇り、六巾一間の俺の部屋にまた一日の始まりをつける新一年生のモーニングコールが聞こえてくる、時計を見ると十二時を過ぎている。「こりゃ いかん!!」と思えばよく考えてみると今日は日曜、安心してまた一眠り。気がついて起きてみると三時を過ぎている。ごそごそとふんからはい出て、まず、たばこをぶかり、歯をみがき、顔を洗って、今日は何をしようかと考え出すのが四時ちょっと前、まず今日は気分がいいから部屋の掃除をして、洗たくをした。そうしているところへ、大分の田舎から電話が有った。久しぶりに父母の声を聞き、また一安心。「しかし、もうこの部屋で二年間の大学生活を送っているのか……。」テレビと机とこたつしかなかった入学当初から思えば、ステレオもあるし、下宿生活の最先端をいっていると言わなければならない、このせいで沢な暮らし。

親には、「みんなはもっとすごいんだ。」と言って、悪く言えば親をだまし続けて来た自分が何となさげない人間だと思わずにはいられない。新一年生が「先輩、僕もステレオが欲しい。」と言いながら俺の部屋に来てはステレオを聞いていく。「一年のころからせいで沢なことを言うな!!」というところ「バイトでもして買います。」と一言。俺は何か自分がかにも自分の力で買 たという様な気分になってしまった。こういう小さな一年生の純粋な気持ちを忘れかけていた自分に、年月の経過というか、流されかかっていた自分の生活に気づいた。

国産 中国産 総合書道用品 天神貸画廊オープン
卸 商

書 苑 硯 山

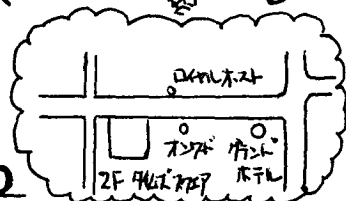
〒810 福岡市中央区天神三丁目23
TEL092(721-1644) 営業所 下関・東京・新橋

よい子のPUB

Times Square

タイムズ スクエア
PM5:00-AM2:00 PHONE 75-0380

10月15日分まで
Happyなパブ
仲間どうしてワケ人
ココならココ!!
怒りの両2人でも
ビュッ



道

法学部 四年 崎坂真弓

この春大きな岐路に立っています。希望いっぱいの新入生を迎え、改めて“四年生”という重みを感じています。

これまでの三年間を何とのんびりと過ごしてきたのでしょうか。遠くなつかしいような気さえます。時の歩みは三重である。未来はためらいつつ近づき、現在は矢のようにはやく飛び去り、過去は永久に静かに立っている。“そういつたのは誰だったでしょう。”

“知らぬ間に”積もる雪は趣深いもの。けれども、“知らぬ間に”過ぎた日々は戻らず、それは、反動となり、情け容赦なく現実には、私に跳ね返ってきます。もちろん、過ぎた日々を後悔してもしかたありません。その時々はきつと精一杯で、そして、その時々も私の人生で、私から切り離したりできないものだから。ただ、近づきつつある大きな分岐点に向うにあたり、行方を決める手懸かりをみつつけようとしたのです。

三年間、このクラブという名の小社会の中の、先輩・後輩・同輩といった人間関係の中で、様々な人々と出逢い、その感覚に触れ“十人十色”ひとつの山に登る道は数知れずある。“という言葉の意味を身をもって確かめ、つまり、“色々な見地に立って考える事”を学びました。

これからの長い私の道のりの中で、振り返った時、この時期が、私に大きな影響を与えていること、又、糧となっていることを必ず確信するでしょう。

この三年間を土台に、今私は壁を乗り越え“道”に飛び出して行きます。

流 転

経済学部 四年 濱田清治

「ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず、流れに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びていささかもとどまることなし。」

私も書道部二十二年の歴史の流れに浮かんで消えた数かぎりない泡沫の一つである。今こうして荒鷲の原稿を書くのも最後になってしまったが、しかし、この四年間、書道部との出合いは、多くの数かぎりない人々との出合いへと輪を広めてくれた。その出合いの中で喜怒哀楽を知り相互に理解、批判したことは心の中で今もお生きている。

これらのものすべてから人間関係の大事さを学んだ。ともすれば、衝突をさけるために、表面上のあたりさわりのない人間関係を求めようとするがそんなものはナンセンスだ。ほんとうの絆というものは、自分をさらけ出し、相手にがむしゃらに向かう事だと思ふ。そうしなければ、相手はわかってくれない。

何事も流転して行く中で、人の絆だけは昔のままのものでありたい。先輩が、自分の目指す大陸に突き進む航海者であれば、先輩は時には大波、時にはさざなみを与える海のようなものでありたい。

“ 人 生 観 ”

経済学部 三年 津村文彦

昨今、校内暴力や犯罪の低年齢化が叫ばれている社会に生きていく自分にとって、一体人生とは何なのか。何も考えず悩みもせずに二十歳まで一体何をして来たのであろうか。

二十歳になると自動的に大人の仲間入りとなる理由だが、全く大人としての認識・自覚が湧いてこない（なさないことだ）。

しかも、自分は大学の三年になった理由であるが、過去二年間で身に付けた事と言ったらパチンコ・マージャン・酒と何一つとして自分に為になった物はない（考える事もせず悩みもせず毎日を平易に過ごした）。もう二年もすれば社会人になる。人生とは何んと時の立つのが早い事か。先日、ふとした機会で海に行く羽目になった。一面青い潮水と心地よい潮風又煮え立つ様な太陽の下で人々が何も言わず着々と仕事を続けている。曖昧な事では生活が脅かされるからである。これでは何の為に生きていくのか疑問である。

しかし、この光景を眺めていると、確かに人生とは短かい事であるかも知れないが、その短かい人生を、一日一日精一杯に後悔の残らない様に過ごしている様な気がする。

現在の自分には到底叶えられそうもない。

大学生活は二年間しか残っていない。我武者らに何事にも打ち当るしかない。

“ やるぞ ”

行く我にとどまる汝に秋二つ

福大生になつて

理学部 一年 四元小順

福大生となつてもう2ヶ月が過ぎようとしている。入学当時は、毎日学校に行くのが、楽しみであつたが、今は授業もなんとなく聞いているだけで、以前のようにはりつめた気持はまるでなくなつてしまつた。学校に行く楽しみもなく、本当に何をしに大学へ行つていいのかわからないようになってきた。そこで私はサークルに入ろうと思つた。いろいろなサークルの説明を聞いたが、私がやりたいと思つたものはあまりなくてどうしようか迷つていた時、友だちが「書道部に入ろうかな。」といつた。私は書道部の説明はきいてなかったけどなんとなくいいなあ、と思つた。

私は左ききなので字も左で書く。右で字を書いたといえ、小学校の習字の時間ぐらいだった。私は習字の時間がいやでしかたなかった。だけど大きくなると左ききというのはなにかと不便で、右で字ぐらい書けるようにならなければいけない、と思つた。それで私は、大学四年間で右手で字を書けるようになろうと思つた。

書道部の練習にはまだ一度しか出ていないが、第一印象はすごく厳しいなあと思つた。ここで私が四年間やっていけるか不安だけどがんばつてみたいと思う。

僕は、毎日チャリンコ、すなわち、自転車に乗り通学している。しかも、学生服を着て、運動靴を履いて、俗名万引バックを、ひもでくり付けて、通学している。そして僕の頭は、相変わらず、スポーツ刈りであり、通行人の誰から見ても、高校生か中学生に見える。しかし、この事は、僕自身、誇りには思っていない、恥などとは一度も思ったことはない。

学生服は身も心も引き締まり、自分が学生であることを、自覚させてくれるし、スポーツ刈りにしておくと、頭もすっきりして、手入れなどに使う無駄な時間がいらなくてすむ。僕にとって、流行などは、どうでもいいものである。

チャリンコにしても、僕は、他からの動力も借りず、自分自身の足力だけで動くような、自力本願的な所が好きであるし、この事は省エネルギー、無公害など全く時代を先取りした。古い時代からの健康的な乗り物であることを示しているのです。またチャリンコには、書道をしている人の、精神状態などが、字に表れるのと同じように、チャリンコをこいでいる人の精神や健康状態が、ペダルの重さや、スピード、などに出てくるのです。まさにチャリンコと、こぎ手は一心同体なのです。

今の時代はすぐに新しい物にとび付くが、昔からの良い物を、もっと有効に使ってほしいものです。僕は、古くさい人間かもしれないが、大学を卒業するまで、チャリンコに乗り通学するつもりである。

思っている事が、相手にうまく伝えられない。こういう事ってよくありますよね。例えば、恋だってそう。相手の人を、好きだ。好きだ。って思っているのに、なかなか、態度に表わせなくて、むしろ、そっけなくしてしまふ事。誰しも、経験あるんじゃないかしら。

クラブの中でも、心の擦れ違いって、よくあるんじゃないかしら。自分では、きづつけるつもりなんてないのに、ちょっととした言い方だけで、相手を、とても不愉快にしたり、親切でした事が、かえって相手を困らせる原因になったり。口の悪い私は、こういう事は、もう、しょっちゅうの中のような気がしちゃう。みなさんは、どうかしら？

どうして、擦れ違いって、おこるのかしら。それは、たぶん、もう少し考えて、もう少し相手の気持ちを考えて、言わないからじゃないかしら。もう少し、相手の事を思って、お話ししたら、擦れ違いって、少なくなるかも……。

本当は、擦れ違いなんて、全部、全部なくなってしまうえばいいのだけど、人間は、とても、わがままな所があって、時々、自己中心的にしか、物言を、考えられない事があると思うの。その量は、人によって違うけど、なるべく少ない方がいいと思う。でも全くない人も、つまんないんじゃないかと思う。なんだか、とっても難しいような気がしちゃうけど、私が思う事は、平和に平和にあってほしい。って事と、人をきづつけて、喜ぶ人なんて、そうめったに、いないのだから、なるべく心を

広く持ちたい。って事かな。ねえ、そう思わない？

「友 達」

経済学部 一年 中川 敦江

大好きな友達の中の一人にとても可愛らしい人がいます。

彼女との出会いは、高校の職員室の前、英語にやや問題ありというこ
とで、呼び出された仲間だったのです。二人はすぐ意気投合。色々な事
を話すうち、二人は同じ種族なのだという事に気付いたのです。出会
った最初の頃、人間顔形は違っても、同じ考え方の人間が広い地球には
存在するのだノと本気で信じていました。それ程二人の考えることは似
ていたのです。

しかし、時がたつにつれやはり個人は個人という結論に達し、大きな
もめ事はなかったけれど、ささいな人間不信を起しながら現在に致っ
ています。まさに彼女は私にとって本当の友達です。妙に彼女の前では
意地を張る私ですが本音が書けました。(決してこの文章は彼女の目に
触れないので) アリガトウ

また福大で書道を通じて、素敵な友達に、巡り会えればいいなと思っ
ています。

最後になりましたが、諸先輩方、根性の足りない私です。でも見捨て
ず御指導してください……。ガラにもない文章を書いて疲れました。

焼きたてのパン

リスドール長尾店

城南区神松寺一丁目 営業時間 午前5時～午後9時30分

「ローシーでミニパーティーを」
サンドウィッチハウス

ローシー

福岡天神三丁目<天三ビル>2F
PHONE 721-6595

合宿用寝具類の専門店 TEL 521-6565



貸ふとん

つるや

福岡市中央区薬院3丁目10-10

男のロマン

経済学部 三年 内 田 崇 之

日本北アルプスノ山に心寄せる人々のあこがれと思慕を集める三〇〇〇mの山々達。山男は、限りなく青天にあおく尾根の赤々と色彩られる冬の光明を求めて挑むという。これを成し遂げた男の目は、光輝き、感動に満ちあふれているだろう。こんなことを思いながら学食で今、卵かけごはんを食べているこの超現実。いやですねー。

しかし、最近本当に無感動になってきた、子供のころの自分は、やはり今よりずっと、素直であったのだろうと自己分析する。このせち辛い世の中で、心が貧しくなるのは当然といえはそうかもしれないが、これでは、どこかさびしい。宣伝の文句じゃないけれど、子供の頃の夢を、一つ一つ捨てて、大人になった。今、この夢をとりもどそうとしている。といったところです。やっぱり、男は、男のロマンを持つべきだ。別にここでロマンの意義目的などを、言うつもりはないですが、こんなものでもちょっと心の隅っこに持っていたいものです。これから年をとるにつれて益々、屈折した性格になっていくのかなあ、と思うとぞっとしたりして、自分も昔は、子供心を持っていたことを忘れないようなおじさんにならうと思います。はてさてこれから先どうなることやら、俺の青春、現在進行形！

園 ば か 店 茶 女 八 わ

福岡市早良区飯倉7丁目28-5 TEL (861) 6365

命 御 用 の バイク ・ 自転車 会 商 車 転 自 原 篠

福岡市城南区荒江1丁目28番21号 TEL (821) 0551

産 動 不 泉 友 有 限 公 司

福岡市城南区友丘2丁目4番2号 TEL (871) 6580

大学生生活

商学部 三年 高橋 福代

大学に入って、二年がたったけれど、今まで何をやって来たのだろうか。という気持ちでいっぱいです。そして、今から何をやっていけばいいのだろうかという不安の中で毎日を過しています。自分自身で、どうしようもない気持ちです。でも、私には、クラブの仲間がいます。今まで、何度も何度も、支えられて、ここまでやってきたのです。だから、これからもやって行けると思っています。やっていけるといふより、自分にあまえたなら、負けるような気がしてならないのです。言葉で言うのは、簡単だけど、いつも何にでもチャレンジする新鮮な気持ちを持ち続けたと思います。ところで、私は今、毎日をゆったりと過したいというか、自分自身をゆっくり観察してみたいです。自分は、性格とかは、ある程度わかかって来たと思えます。これから先自分自身が向上する為には、自分の良い面を人と接して見つけるのもいいことだと思いますが、今までやったことのない事を集中して納得できるまでやってみる中で探していきたいと思えます。いつ、くじけるかもしれません、大学に来たからには、一つぐらい、クラブ以外に「やれた」と思う事を残したいです。

最後になりましたが、残りの二年間を有意義にやって、楽しい事も苦しい事も、クラブ全員でのりきっていききたいです。

私の履歴書

法学部 四年 安倍 三紀子

日経新聞の朝刊に『私の履歴書』という欄があって各界（主に財界人）の波乱にとんだ人生が自叙伝的回顧録的に書かれている。

これを読みながら私はよくこう思うものだ。

依頼された筆者が決められたスペース紙上に、書けるものは大きな出から、とうてい一日一日の微妙な心理・変化については詳細に書けるものではない。それ故、若き日の苦勞話、信じられぬようなエピソードを感慨深く書いた一文字一文字というのは我々には印刷された文字でしか読むことはできないのであるが、その重みは相当のものであらうと感じるのである。

ところで私も大学に入って三年間が過ぎた。思えばずいぶん無茶苦茶な事もやってきたような気がする。こうして書道部員として原稿を書いている事も夢のようである。しかし、四年生は大学生活のまとめであるから、統合的にしごく抽象的ではあるが社会人としての深い認識と落着きを備えたい。卒業の時点で悔いのないように、私は私なりの「私の履歴書」が書けるよう学生生活を締めくくりたいと思っている。

ある晴れた日のある考え

経済学部 二年 古 峠 雅 文

福岡大学に入学して一年、適当に勉強し、適当に遊んだ今、得たものはと言われると困ってしまう、近頃、考えた事がある。

私の理想としている大学生像というのは、何と、アメリカのアイビリーパー達である。私はアメリカが好きだ。又、アメリカ人の合理的すぎる考え方が好きだ。日本人の理屈っぽい不合理な昔ながらの古い考えの持ち方は好きではない。自由：これがアメリカにはある アイビリーパー達のライフスタイルについて読んだ事がある。彼らは驚くほど勉強する。少しでも高い地位につこうと、少しでも豊かな生活をやろうと。アメリカの社会は完全に学歴で区別されるという、きびしさもあるのだ。そして遊びの天才でもあって、その切り換えは早く徹底している。そうして彼らは、エリートとしての道を歩き始めるのだ。

「エリート」この言葉のリッチな響きが、私は好きだ。そして私は考えた。エリートと呼ばれるビックな人間になろうと。

私は母が三二歳の時、生まれた。三二歳というと、女の「やく年」である。役年に生まれた子供は、か。し。こ。い。そうだ。私の名前は、優雅の「雅」に、文学の「文」という字で「雅文」という。いかにも、知性と教養に満ちあふれた名前をもっている。そして又、私は、何と「福耳」の持ち主なのだ。そうか、私はビックになる男なのだ。今年はまだじめに勉強しようと考えて、講義は、真面目に聞くし、短いながらも、予習、復習もやっているこの頃。

しかし、春の陽気が、男の性を刺激する。そこで私は考えた。勉強だけではだめだ。

遊びとの両立をやらなければと、切り換えが大切だと。春の陽気の中「両立」という言葉の快い響きを胸に感じながら私は天神に「ナンバ」に出かけた。

性格バラバラ 口だけの古峠クンの

ある晴れた日のある考え事でした。

「親の心子知らず」

人文学部 四年 児 玉 富 美

「勉強せんでいいから人間を見て来い。」そう言われてからとうとう四年目を迎えました。教育者でありながら、いや教育者だからこそ言えた父の言葉であったと思います。この三年間の私の姿を見抜いていたのか、私はある程度その方針ですごしてきました。聞く人が聞けば何ていいかげんな！と思われるかもしれませんが、でも、私がかもう一度大学生活をやり直すことができたとしても、現在とそれ程の差はないであろうと思います。

専門分野の学問の探究よりも課外活動に力を注ぎ、その活動にあっては特殊性の追求以上に人との触れあいを多く求めてきました。その中で笑い、喜び、苦しみ、泣いたことは決して無駄な事ではないけれど、別の面から見れば実に勝手の良いものかもしれません。

四年間の授業料のほかに、毎月の生活費を送ることはいくら共働きの

家庭でも、大変な苦労には違いないはずです。私自身、ちゃんとしたアルバイトの経験はなく、金銭面はすべて親に頼ってきました。そうして月末の入金の際にだけは手を合わせて親に感謝しているのですから私は一種の放蕩娘なのであります。

しかし、親の苦労と違っていき自分が親になってみなければ、本当の気持ちなんかわからないんじゃないか。親が聞いたらどんな顔をするでしょう？。でもそう考えたら、中途半端に両親に気がねするよりこの一年も私なりにやりたいことを悔いのないようにやるしかないと思っただけです。

また、この一年は、卒業後の自分の確固とした進路を決定せねばなりません。

「何になってもいいけれど、自立してやっていける程のものを持てるよう努力しなさいよ。」という母の言葉を今頃になって重々しいものに感じながら何となく落ちつかない最近の私です。

面と向かって感謝の言葉を言ったことはないけれど子供は子供なりに親の姿をみてその苦労を感じありがたく思っているのですが。所詮「親の心、子知らず」ですね。せめて、健康であってほしいと願っております。

書き味に責任をもつ店うんぽうどう

書道用具専門店

雲 峯 堂

〒812 福岡市博多区下川端町6-113
電話(代表) 281-1550番

気になる髪の毛の為今お手入れ時

美容室 あっふる

定休日

各店共 第3日曜日 (七隈店) 城南区七隈4丁目5-8 TEL 801-2544

毎週火曜日 (長尾店) 城南区長尾3丁目9-7 TEL 511-4291

書道部 入部

経済学部 一年 林 田 一 男

福大に入学して二週間。私は、ただ毎日をダラダラと無気力にすごしていたようである。第一志望校に進学できなかったためでもあったのか、夢も希望もない通学であった。私は大学生活というものに失望しつつあった。

そんな時である。同じ下宿丸田先輩から書道部入部の声がかかったのは。数日後、書道部の先輩三人と酒を飲みに行った。話を聞いていて、まったく悪い気はしなかった。自分も書道部に入部しようか。よし入部しよう。その時は本気でそう思った。しかしこれからの四年間、伝統と実績のある福大書道部の一員としてつとめていくには、余程の責任感と根性を持って行動しないとつとめきれない。衝動的な入部では次の日どんな考えに変るかわからない。私はそれを恐れた。私は一週間、四年間と比べたらほんの短い時間であるが、書道部の一員になったつもりで通学してみた。なんとなく充実している。生活にもほりがある。私は入部の意志をかためた。

入部したての一回生である。先行、不安は多大にある。中学、高校と軟式庭球部に所属し主将をつとめたせいもあって、体力には自信がある。しかし今度は、まったく経験したことのない文化系のクラブ、しかも書の道を極める書道である。初心者である私にとって技量面では当然他の部員の後を追う形となるであろう。しかし、精神面だけは経験者と同じだけの成長をしたいと思う。入部と決心したからには、自分の書道を少

しても造り上げるよう、そして四年後に大学生活をふり帰ってみて書道部での思い出がたくさん残るよう努力したい。

目 に 青 葉

商学部 三年 高 杉 素 子

最近、とっても草花や木が好きになりました。

毎朝、鉢に水をかけ、朝日ではえる緑と水滴を見ると、さわやかさいっぱいって感じてとっても気分いいんです。

咲き誇る花もすばらしいけれど、私はつぼみがふくらみはじめた時の方が好き、何故なら、ひかえめで、香りを含んでいるから：

春だからこんな事を考えるのかな？

でも自然に接している時って、本当に素直になれるものですね。去年の夏、信州の山の中に行った時、高山植物が山いっぱいあって、山全体お花畑って感じのところにおいて、考えた事って、本当に人間なんて、ちっぽけなものだなんてことでした。そして普断、全然感心を示さない事にも、ひどく感動したりするんです。自分でも不思議な感じでした。

実際の生活の中では、私自身すぐく純粹さを失うって思います。でもそんな時何となくその情景を思いうかべるとほんと気持ちがなごむ事もあるんです。

いろんな場所や人との出合いをこれからもっと大切にして心豊かな日々を送りたいものです。

仲間(友)

経済学部 三年 中村 純一郎

すがすがしい春、キャンパスを歩いているときさわやかな新入生のおちつきのない光景が目に入る。なんだかこっちまで気分がさわやかになる。そんな気分のままアパートに帰り、一人っていると、そのころからの懐しさが、思い浮かばれてくる。――。楽しかった事、くやしかった事、
・・・。そんな時、そばにはいつも友がいたように思える。俺は、大自然の中にポツリと立つと、すぐ心の中がすっきりし、美しき、雄大さにくすぐ感動されるのだろうか、心ふくらむかのように気持ちまでが寛大になる。友と一緒にいる時でさえ、このような心境にさせてくれるときが幾度となくあった。むなしさを感じるとき、不安を抱いているとき、互いに、わがままを言ったりけんかしても、その後はすがすがしい。友と一緒にいれば心強く、通じるものがある、やりたいことができるように思える。俺は「我らが仲間」ってよく口づさんだり、文面に書いたある。「さあ『我らが仲間』よ、時間の許す限り、いろんな交流をもち、一緒に進んでいこう。」って、よく心にしたものだ。今、一杯のコーヒ―を飲みながら懐しい出逢いと想い出が想い浮かび、今、新なる道を歩もうって・・・。

友よ、なんておまえはバカなのだ。

そこまでバカなのだ。どうしようもない。

でもそんなおまえが大好きさ。

友よ、おまえは教えてくれた。

口では言い表わせないことを。

礼儀について

人文学部 二年 貞 莉 静 香

哲学者のベルグソンが礼儀を二つに分けて考えている。一つは知性もしくは才能に属するものでいわゆる社交的な礼儀、もう一つは心情に属する礼儀、つまり徳性としての礼儀である。

書道部においても、礼儀ということが大きな研究目標とされている。礼儀とは、相手の心のなかに奥深く降りてゆき、相手が自己の弱点や欠点と考えているものに、愛情をもってやさしくふれ、それを慰め、力づけることである。礼儀が形式的にならないために、何を一番に考えるのかといえば人を傷つけないことだと思ふ。親しきなかにも礼儀ありで、お互いに相手の神経をいたわるつき合いでなければそのつきあいはいくらも進行しないであろう。

そして礼儀とは、先輩に対してだけ、先生に対してだけとかいうように限られた人々にだけに気をつかうことではなくて、もっと大きなものだと思ふ。同輩、後輩その他自分の周囲にいる人すべてに通じることで、相手の自尊心を満足させ、自分が中心にいるように思わせることである。これに対して人を窮屈にするのは礼儀ではなく、礼儀の形をした冷たいひとりよがりなのだ。自分の利害のための礼儀になってそれこそ形式的になってしまふのだと思ふ。

心を開いて

人文学部 四年 渡 辺 泰 子

人間は、土や石や木や煉瓦などを用いなくとも、形なき壁をいくらでもうち建てる事ができる。いわば思考の壁、判断の壁、言葉の壁である。

その壁を自分でつくって、そのなかに閉じこもり、そしてチツポケな主観的な、ひとりよがりの判断をする。みずから視野を限定し、心を狭くし、二義的な価値観にひっかかって、セカセカ、アクセクとこの浮き世を生きてゆくのだ。

最近の日本人は、昔の人に比べ精神的に小さくなってきたといわれる。人間が小粒化し心が大きい、視野が広い、いわゆるスケールの大きい人物が少なくなってきたのである。

どうしたら心を大きくすることができるか。それは、心の壁、判断の壁を打ち砕くことにあると思う。

人間だれでも欲と見栄があるから、「失敗したくない」「人からよく思われたい」といったような固定観念にとらわれやすい。

体にクセが付きやすいように、心にもクセが付きやすい。これは考え方の習慣であり、いわゆる固定観念であり、判断の壁である。

心にクセがついてしまうと、これから脱却することは容易ではない。そして、何か困難なことや未経験の事態にぶつかつたとき、このクセのために考え方が縛られてしまって、身動きもできなくなることがある。

こういう時こそ、「失敗したって構わない」「人から悪く思われても

構わない」と一度、開き直ってみてはどうだろうか。

開き直るとは悪い意味ではなく「否定から肯定へ」という心の逆転の操作であり、心を開け、心の姿勢をまっすぐにすることである。

こうして心を開くことによって、ひとつひとつの壁を破り、自分をひとまわりも、ふたまわりも大きい人間にしていきたいと切に思っている。

「なぜか四年生……」

商学部 四年 丸 田 俊 和

家に居る事が嫌いで、県外の大学に来て下宿し、今下宿人から嫌われる長老。私が行くところみんな逃げてゆく。さすが四年目になりました。さて、親の目に届かぬ所に来て根からの遊び好きの自分は授業に出る事も忘れ、掃除、洗濯も忘れ、ましてや、下宿のふとんで寝る事も忘れて遊びまわりました。当然、お金も使いました何に使っているのかわからないうちに始めは少しずつ、気付いた時には手元には、一円もなし。キャッシュカードはあれど、利子しか入っておらず、しかたなしに親のすねをかじってきました。親から怒られても、へとも思わず得意のアゴ、分かつたような理屈をこねては親を押さえ込み、いきになつていました。クラブでも、手足のように動きまわった一年生、影ではいつも先輩の悪口を言い、前にでるとハイハイとすなおな元氣な一年生をよそおい、昼飯代をうかすために遊びの金を得るために頑張りました。二年生、先輩と後輩の板ばさみ、クラブの方針に不満をいだき、いつやめてやろうか、いつやめてやろうかと機会を伺うことしばしば、問題児とし

ての名を今日に残したのもこの時。三年生、夜も寝ずにおもしろくない話をし、又、自分の事でもないのに、クラブの為に金と時間を使い四年生からは、目のかたきのように文句を言われ、影で悪口を言っている。だるう一年生、二年生の昼飯代を請負い、自分はいつもピーピー。いつの間にか顔はふけ、体はおじん、考え方は古くさく、本当にこんな私に誰がした！

しかし、青春の軌跡を振りかえる時にあらず、四年の春だ。もう一度体を鍛え、新鮮な気持ちを持って……遊んではいけない。新しい社会の一年生になるまでに、長老の名をフレッシュマンに変名しよう。さいわい今の自分には、まだやりなおせる時間も少しはあるが、ないこともない、又、一、二、三年間と苦い経験もしてきた。自分の為にふけてきた両親に、もう一頑張りしてもらい、かじりつくしたすねを、もとどうりになるように、夢と希望を与えてやろう。地位や、名誉や、財産なんて、いらないぜ？どうせできないし、ない。自己満足でもいい、今の自分が最高だと思えるように、自分の今までに経験しすこしずつ影の出た来た信ずるものを、より実物の物にするために、やってやろうじゃないのノ生きてやろうじゃないのノ………と甘い、青春？マンガ的な考えがよく四年になって頭の中を鬼ごっこする。へたな考え休むに似たりというものなのかなー。

合宿にクラブ活動に電話一本で

貸ふとんの丸屋

福岡本店 092-712-5511
北九州営業所 093-661-5541
東営業所 092-622-2190

福大生のいこいの広場

ボウリング コーヒー ゲームコーナー
レストラン オートテニス 音楽喫茶(もみの木)
ビリヤード バッティングセンター 雪印スノーピア
卓球 スナック 有料駐車場

七隈ファミリープラザ

814-01 福岡市城南区七隈11番地(福大横) TEL(861)5555

春に思うこと

法学部 三年 鷲崎 ゆみ子

大学にはいって三度目の春がやって来ました。暖かな日差しの中で新しい友を見つけることのできる春……そんな春が大好きです。

新しく知り合うことのできた人と話していると、必ずと言っていい程、「何かクラブにはいっているの？」という質問をされます。そして、「書道部にはいっている。」という私の返事に、相手の反応は様々ですが、ただ一様に返ってくる言葉があります。「書道って、どこがおもしろいの?」「どうして書道部にはいったの?」

書道のおもしろさというのは、少しでも書道の経験のある人ならすぐにはわかると思います。言葉にしてみれば、「墨跡の美」「余白の美しさ」それを自分で創造していく楽しみが書道のおもしろさです。と言うことができるでしょう。そんな書道のおもしろさ、「書くこと」が好きで書道部にはいったわけですが、今、改めて考えてみると、私は本当に書道をおもしろいと思っているのかな、という疑問が浮かび上って来るのです。この線を太くしたから次の線は細くしなければいけない。小さい字の次には大きい字を……という調子でなんとなく、がんじがらめにされている気持ちがあるのです。自分でいろいろ試してみても、納得できれば、そんな気持ちから解放されるだろうと思うのに、つい安直な方法をとってしまつて、窮屈な思いをしているのです。

そこで、新しい目標、「失敗を恐れず、挑戦してみることに。」をあげたいと思います。「なぜ書道部にはいったの?」と聞かれて、胸を張っ

て、「書道が好きだからよ。」と答えられる時が早く来ることを願つて。

大学生になつて

理学部 一年 構 溝 賢 治

入学式が終わつてから、一人下宿でボーとしていた俺は、講義が始まつてからも、全然すじの通つた生活をしていなかった。そしてたくさん友だちと楽しく会話している人たちが、羨ましかった。ただん陰気になつていく自分がわかつた。「こんなこつじゃ、いかん、ぜつたい、いかん。」そう思い、サークル活動に参加することを決意した。しかし、サークル活動といつても、かなり数が多い、先輩たちの話を聞いて、前まで考えもしなかつた、「書道部」に入つた。入つてからは、友だちもふえ、陰気な生活から、陽気な生活に変わつていった。

サークル活動に参加することによって、他人との、接触のしかた、物ごとへの積極性、他、たくさんの方に社会に出発するための心構えなど、数多いことを勉強できるように思える。

しかし、サークル活動は楽しいことばかりではなかつた。練習は厳しい、とくに正座はきつい。練習中の先輩たちは、気合が入っていて、普通の時といつしよというわけにはいかない。字はなかなかうまくならない。でも練習が終わると、さわやかな感じがする。

大学生活において、いろいろなことを、勉強し、そして、先輩や友だちとの信頼感や友情をたいせつにし、大学生活はよかつた、バラ色だつた、と思うように、一日をたいせつに生きて行きたい。

母への手紙

法学部 三年 坪 矢 一 義

『前略』おふくろさん「みんな元気にやっていますか？僕の方も相変わらずの毎日を過しています。別に勉強もせず、クラブに追われる毎日……。もう僕も三年だからそろそろ就職の事も考えないと」と思いながら……。この頃よく自分の手を見ます。逆むけがない時は安心するけど、逆むけがひどい時は……。「このままでは」と思いながらもつい親不孝ばかり……。『おふくろさん』苦勞ばかりかけてすみません。でも、おふくろさん、僕が卒業するまであと二年、あと二年間の親不孝を許して下さい。あと二年間の僕の甘えを許して下さい。おふくろさんにとっては長い二年間だと思うけど……。きっと逆むけのないきれいな手になりますから……。それでは、あまり無理をしないように。夏休みには帰ります。』

今まで友達に手紙を書くことはあっても、母に手紙を書いた事など一度もなかった。もともと文才がないので文章を書くのが犬の苦手なのだ。福岡に来て、もう三年目の春を迎えるわけだが、一、二年の頃はもうでもなかったが、この頃、無性に家が恋しくなる。別に福岡の生活に疲れたわけじゃないけど……。ただ妹やおふくろの顔が見たい。申し遅れたが私の家族は、母と高三、中一の妹二人の四大家族である。地元が大分ということもあって、なかなか家に帰る機会がないが、やはり離れて暮しているせいかな、この頃やっとな親のありがたさを感じるようになってきた。

「おふくろさん」苦勞ばかりかけてすみません。きっと逆むけのないきれいな手になりますから……。」

大学生になって

理学部 一年 関 礼 子

私が大学に胸をふくらませて入学して来てもうすでに一カ月が過ぎました。高校の時、大学生が教科書を片手に持ち、語りあいながら歩いている姿を見て。

あこがれた私も、今では福岡大学の一学生となりました。右も左もわからないこの私が、考え物を見る目を持った人間になり、いかに大学生活をエンジョイ出来るか、とても不安でした。しかし、クラブを通じて私は大学の授業のこと、試験のこと、サークルのことなど、いろんなことを知りました。

私が書道部に入った動機は、単に字がきれいに書けるようになるというだけでなく、おちつきのある女性になりたいと思ったからです。こんな私が書道部に入って初めての練習の時、先輩方は筆の持ち方からいいいに教えて下さいました。その時から二十日あまりが過ぎましたが、また筆の持ち方にもぎこちなさが残っています。それに、二時間あまりの正座にもまだ慣れていません。こんな私ですが、一日も早く自信を持って、人に見せられるような字が書けるように努力して行きたいと思えます。

書道部に入って

法学部 一年 藤代裕之

期待と不安の中で、福岡大学に入り、やがて、大学とは、ただ講義を聞いて、帰るだけという実に単調ではりあいのない所だろう。このままではなにもしないうちに卒業を迎えるのではないのか……これではいけない、そう思っていると、高校の書道の時間に、先生が「大学に入ると、何かクラブに入りなさい。そうすると、先輩や後輩ができ、四年間で、八年間も放れた幅広いつきあいができるぞ。」そうおっしゃったことを思い出して、別に書道の経験などほとんどないのだが、字がきれいになりたくて、書道部に入部しました。

今でも、ほんとうに自分はこれから四年間もやって行けるのだろうか？と不安もありますが、懸命に先輩方の書道に打ち込む姿を見習って頑張っています。そして早く先輩方のアドバイスをよく聞いて、整った生きた字を書いてみたいです。

それにしても書道部は、数多くの行事がありますが、その一つ一つに、できるだけ積極的に関わって行こうと思います。

まだまだ未熟者の自分ですが、書道を通じて、礼儀や生活面等、一歩成長して行きたいです。これから四年間、「初心忘るべからず」の言葉をモットーとして、頑張ります。先輩方、諸々の面において、よろしく願います。

選択

工学部 三年 西口公恵

ある雑誌で選択の心理学というものを読んだ。人は得をするかけでは、その金額よりも少なくとも、確実に金を得られる方を選択し、損をするかけでは、その金額が確実に金を失う金額より多くとも、かけをする方を選択するというものである。かけを選ぶか、確実な得、あるいは損を選ぶかということは、金額の大小でかけを選択するか否かの度合いが変わり、これをグラフや数で表わせるといふのである。つまり、人は損をするとかわかってはいる時はかけをし、得する時は確実な方を選ぶのである。これを読んだ時、なるほどこの様なことが確かにあると思った。

これは金額だけに限らず、色々なことにも言える。いかなる時でも我々は選択を強いられている。例えば講義に出るか否か、買い物をするか否かなど。このような日常茶飯な選択ではなく、もっと大きな、人生の選択を強いられた時、人はどの様に選択するのであろうか。私は危険をおかした大きな幸福よりささやかでも確実な幸福を選ぶであろう。しかし、少しの望みでもあれば、かけをすることもあった。この場合、前者は得をするかけでかけを避けた場合であり、後者は損をするかけでかけを行った場合といえるだろう。これは先に述べた選択の心理に当てはまる。数ヶ月前ある選択をし、また今、ある選択をしようとしている。過去にも幾度かの選択をし、今日の私がある。これからも幾度かの選択をして私の一生をつくることだろう。

和服し安心

金糸・銀糸にも安心です



岩下志麻

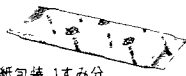
大切な着物の保存には、やっぱり樟脳と——その効きめと香りには根づよい支持をいただいています。樟脳を和紙で包んだ「和服し安心」は、確かな効きめに使いやすさをプラスした、和服専用のしょうのうです。

- 和服に安心………自然の原料をもとにした高級防虫剤です。
- 長期保存に安心………効きめは、通常6ヵ月持続します。
- かびに安心………防虫力はもちろん、防かび力にもすぐれています。
- 使い方は簡単………和紙包装のまま、お使いください。

（4包入りフィルム包装
引き出し1段分



和紙包装 1すみ分



■和ダンスの引き出しに4包、衣しょうケースに4包、それぞれ4すみに分けてお入れください。

新発売

防虫・防かびに 和紙で包んだ新しいタイプ

和服し安心

藤澤樟脳



書道部に入部して

経済学部 二年 安 武 和 宏

大学生活を送って一年になりますが、この一年を振り返ってみて、大
学というのは、自分から進んで何かをやらないと、いかにひまで、つま
らないものかということが、わかりました。私が、なぜ一年からクラブ
に入らなかったか、といいますと、今まで受験に縛られた生活をしてい
たので、大学に入ってから、自由に、人に支配されない生活を送りた
い、と当時は思ったのだと思います。しかし、それは間違いでした。孤
独になって、かえって、毎日の生活がおもしろくなく、生きている気が
しませんでした。そして、本当に楽しい生活とは、人との交わりの中
のみ存在するのだ、ということに、改めて気が付きました。それで、「二
年からでも恥ずかしくない、絶対に何かのクラブに入ろう。」と思いま
した。そして、二年目の四月初旬のクラブ勧誘週間の時に、自分に合っ
たクラブはないかと、大学内をうろろしていた時に、空手部に勧誘さ
れましたが、空手部は練習が大変なので、断りました。すると、書道
部に連れて行かれました。自分としては、書道部に入ってもいいなあ。
と以前から思っていましたので、入部することにしました。「書道部に
入ってもいいなあ。」と思った訳は、以前に何度か書道をやったことが
あり、それに、父も現在書道の練習をやっており、自分は書道をするの
に似つかわしい人間だ、と思っていたからです。とはいっても、ここ
数年、書道から遠ざかっていて、まるきりのへたくそになってしまいま
した。それを挽回するためにも頑張りたいと思います。また、このクラ

ブを通して、人と協力して頑張り、その喜びを得られたらと思います。

あ・こ・が・れ

薬学部 四年 天 野 仁 子

誰にでも憧れや夢が多かれ少なかれあるものだと思います。私の幼い
頃の憧れは、誰々ちゃんのお嫁さんになることであり、優しいピアノの
先生になることであり、カッコーイスチュワードスさんになることであ
り、りっぱな薬剤師のお姉さまになることでした。そして、大学一年生
の時の憧れは、はやくはやく四年生になることでした。

今、私は、その四年生になりました。社会人になるには、後一年もあ
り、学生であるには、もう一年しかありません。大学生の最上級生『あ
なたが大将』ではないけれど、まあ、大将みたいなもんです。

でも、そんなにうれいことばかりじゃありません。それは、もう自
分達の上には、先輩がいなく、自分達がすべての後輩の頂点に立ってい
なくてはいけないことや、これからの自分について考えなくちゃいけな
いからです。就職のこと、人生のこと、オンナだから結婚のこと……
etc、すべてにおいて不安だらけの私が見えてきます。

今まで、いい加減にしてきたこと、放りっぱなしにしてきたこと、か
んばらなかつたこと、そんなことを、この一年間で取り繕ってみようと
しても、できるわけがないことをよくわかっていきます。でも、だから、
この一年間をがんばらなくちゃいけないと思っています。だって、今を

がんばらないと、これから先、もうがんばることがないような気がするからです。

春になり、新入生のワイワイガヤガヤの声、五月になれば咲きみだれるツツジ、マンモスな福大校舎、こわい学生課のお兄様方、薄暗い部室前の廊下、角にある男子便所におしゃべりつつぬけの女子トイレ、そして書道部の部室や日本間など、今、すべてのものが、あの一年生の頃とは、また違った意味で、新鮮に見えてきます。

これは、きっと、『あこがれの四年生』になったせいでしょうか？

煩 悩 (男)

商学部 三年 志 岐 直 樹

一人の男が歩いている
先も見えない林の中の細道を
ただ黙々と……

しかししきりに首を振る
首を振っては何か咳いている
そして気を取り直し
寂然とした林の中をまた歩き続ける

そうしているとまた同じことを繰り返す
何度も

自分に対して懺悔しているかのようか
この男は一体何を考えているのだろうか
わからない
一体何を

しかしこの男は止まることを知らぬかのようか
前へ前へと
林の中をいつ出られるのか
いつこの男に光がさすのか
ただこの男はひたすらに
この先も見えない林の中を
黙々と歩き続ける
前へ前へと
止まることを知らぬかのようか
前へ前へと

友 情

法学部 三年 平 田 経 子

某雑誌に面白いエピソードが載っていた。政治家の大養設と実業家の朝吹英二の二人のことで、二人は同じ慶応義塾で学んだこともあって、朝吹の金を大養は共有財産でも使うかのように平然と使っていた。大養は訪ねてくると挨拶ぬきで

「おい金をくれ。」「ないよ、今は。」

「そうか、それじゃ、あの掛け軸を出せ。今日はこれで我慢する。月末にまたくるから少ししまとまった額を用意していてくれよ。」

月末になっても金ができていないと大養は眼を三角にして悪罵を放った。

「君は金づくりの専門家じゃないか。その専門家が年中一生懸命努力しながら、金ができんとは。君の恥辱というもんだ。世間にはバカだって金をつくっているじゃないか。ただおれには金をつくる気がないからいつも金がないのは当り前だ。」

このエピソードに対して次のようなことを言った人の言葉が頭に浮かびます。

「人間、女に惚れたくらいならたまに着物の一枚も買ってやれば済むが男に惚れたら本当に身上つぶしかねないよ。」

これらは男性側から言ったことでしょうが、なんてうらやましい関係でしようか、女性の間にこんな友情はあまり聞いたことがありません。

しかし私はこのような友情を女性の間にも求めます。不可能なことでも

可能に近づきたいのです。

理 解

薬学部 四年 佐 藤 朋 子

人はどの程度に他者を理解できるのだろうか。私は常に、他者との曖昧な関係にいる。自己を基準に、理解の可能な範囲内に於て他者と付き合い、その程度のことでも満足する。一人一人の他者を完全に理解することは少しも必要でないし、又その人が心の中で何を考え、何を目論んでいるかと、そこまでの推理は必要ない。だいたい自分自身の心の動きさえ確実に知らないし、自分が何者であるのかも理解できないのだから。人は相手との間に共通点があれば、その点を拡大し、他者を理解したつもりになる。しかし人が他者を理解している面は、理解していない面に較べて遙かに少ない。それを認識せず、完全に理解しようと考える為に、相手の内部に侵入したが、相手の決断までを手にとろうとする。無意識に他者を判断し、後にその理解が覆されることほど、嫌な事はない。

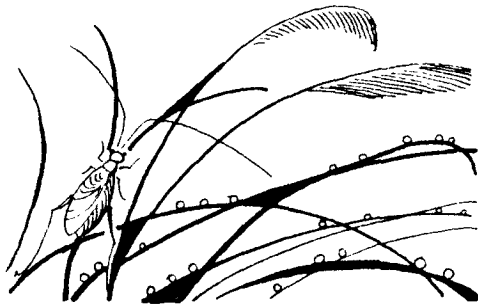
ただ、自身がある他者を必要とし、理解しようとする時、融晶作用をもつ感情さえおこさなければ、より深い理解を求めることはできると思う。

学生時代

工学部 二年 江越健 一一

私は、大学に入って、あっという間に、一年間が過ぎさってしまったように思える。時々、「学生時代」ということは耳にする。学生だから、いろんなことに挑戦できるんだ、そして、いろんなことを経験し、時には、悩み苦しみ、大きく成長していくのだと言われる。しかし、はたして私達は、ほんとうに、そんな充実した、なんともいえない満足感を、感じとり学生生活を、おくらしているのか、疑問に、思う時がある。

私は、そんな時、小さな子供達が、無邪気に遊んでいるのを見て、自分の幼い頃を思い出す。よく遊んだものだった、日が暮れるまで、海に行っては、砂にまみれながら、ちよっとしたことから遊びを作りだし、また山に登っては、こわいものこらえて、人より、より高い木にのぼって、下にいる友に、誇らしげに、声をかけたり、遠くの景色にみとれて、降り方を、わすれてしまって、泣きながら助けにきてくれるのを待っていたりしたものだった。子供の頃は、遊ぶのが仕事だ。子供は、その仕事をいろいろと工夫しながら行う。私は、時々、幼い子が夢我夢中で遊んでいるのを見て、ほのぼのとした気持ちになり、心の中まで、洗い流されるような気になる。少し大人になったからといって世の中すべてわかったようなふりをして現実を見つめるより、幼い子のような素朴な目で、見つめていきたい。そして、そのようにできたら「学生時代」は、すばらしいものになるのではないかと思う。



三年目

法学部 三年 寰原千枝

入学して三年目。私には新しい出発のように思える。

春休みも終わりに近づき、成績発表の時期がやってくるにつれて、何かイライラして人にあたり、落ち着かなかつた。というのも、この先どうやっていくかの選択を成績によって決めようと思っていたからだ。将来、教師になるか、ならないかの最後の選択である。二年生の時は、将来どうするかまだ決めかねていたので、一応、教職をとることにした。だが、今はもうそんなことは言っておれない。イライラしていたのは、一年間の行いというか成果が点数となって目の前に現れ、目をそむけることができない不安からでもある。怠慢な生活をしてきた私には、それは恐怖でもある。

成績は芳ばしくなかったが、一応の目安もついた。姉からもいい顔をしていると言われ、自分でもホッとした。あの当時は、ものすごい顔をしていたのではないかと思う。

今は、高宮校舎にも行き、授業、ゼミ、教職の勉強におわれているあたりさまだ。クラブをみんなと一緒にすることができなくて、同じ教職をとっている同輩がクラブの中にいないことが淋しく思える。いろいろなことがやれるかどうかかわからない。不安で不安でどうしようもない時がある。そんな時、あたりを見回す。みんなやっているんだなあとと思うと、またファイトがでてくる。初心を忘れずにいたいと思う。

自然

法学部 二年 鍋藤利治

自然とは、この地球に存在するすべての物、それらを一つに纏めて、それ自体あるがままの姿で存在する物を、言うのである。これこそが、最善であり最適である。それが由に自然の姿こそが、掛け替えの無い価値があるかの様に最も美しいのです。

今の人間は、自分も含めてこの「自然」という物を、余りにも軽視しているのではないか。形のある物はかりでなく、自分自身の有のままの姿である。自分を実際以上に見せるために本来の自分の姿の上に何枚もの堅い鎧を着ているのである。この鎧は、自分自身重いと一番気付いているはずである。しかしこれを、脱ぐというのは、自分の本来の姿を見られる事への不安や恥ずかしさが絶対に付き纏うであろう。

その時こそ、自分を見詰め直す時ではないでしょうか。自分を見詰め直した時に必らずそこに自分を嫌うもう一人の自分や他人の目を気にする自分と言うのが立ちほだかっているはずであるが、強い自分を作り取り去るべきである。自分の自然の姿というものに自信を持つ事でしょう。とかくこの世の中では、見栄や虚栄心で生活していく事が多く当り前の様になっているが、人間同志の付き合いの中では、自然のままの姿で自分自身を飾る事無い様にしたと考えている。自然は最も美しいものであるから。

「幸福」

理学部 四年 松 藤 美津子

月日の立つのは速いもので、四年目の春を迎えました。窓の外は晴れわたり、ぼかぼかとして、又春風もそよそよととも春らしくさわやかないい気分です。こんな時に空を見てみると、ふと「幸せだなあ」なんて（単純ですけど）思えてくるのです。

幸福なんていう題にすると、すごく素晴らしく大きなもののように考えがちですけど、本当は、ささやかなものだと思います。幸福なんてどんなか考えてみると、自分の身近にささやかな喜びを感じることでできる人だと思ふのです。世の中に全くの不幸という人はいないと思います。誰だって少なからず、幸福だなあって思える時があると思ふのです。たとえ絶望のどん底にあつたとしても、ちょっととした喜びというものは感じると思ふのです。しかし人間とは勝手なもので絶望してしまふと、悪い方ばかり考えがちであり、「自分だけが不幸なんだ」みたいに考えるものです。しかし、そういう時でもふと、「幸福」というものを感じることもあると思ふのです。幸福とは、一見正反対の逆境にある時、思いもよらずふとさしこんでくる天啓の光のようなものかもしれません。幸福など考えてもいない時にふとあらわれるのかもしれないですね。幸福を求めるといふよりやってくるのかもしれないですね。幸福とは追求するものではなくて自然でなければならぬと思ふのです。こんなさわやかな春の日にふと、「幸福だなあ」って感じるように。

時間

法学部 三年 梅 崎 孝 夫

神様は、人間に一日二十四時間という時間を公平に与えてくれました。その二十四時間をどんな風に使えば、満足のいく時をすごすことができるのでしょうか。三年目を向かえ、新ためて、月日の早さに啞然としてしまいます。時間に流されて、時を無意味に過ごしてしまふことは、すごく安易であるのに、いざその失われた時間を自分に取り戻そうとすると、非常に困難が生じます。無駄に過ごした時間は、どんなに頑張っても返ってこないのです。

人は、案外、時間というものに追い廻わされたり、追いかけてたりということを意識せぬままに過ごしていくような、気がします。誰でも、心の中では、「時は金なり。」と幼い頃から教わった言葉どおりに無駄使いたくなく有意義に時間を使いたいと思つていられるのではないのでしょうか。そのため、与えられた持ち時間の中で楽しさを見い出す努力をすればいいのではないかと思います。つまり、時間を秒単位でも、分単位でも、楽しく過ごしたことを知ると、これが喜びに変わり、充実した生活と言えるのではないのでしょうか。とにかくどのようにして、質の良い時間の使い方をするか、私の今年の大きな課題です。

一日は二十四時間

けれど、待ち遠しい時間は長く

追いかけてくる時間は短い

追いかけたり

追いかけられたり

時間と私――

まるで終りのない

マラソンのように………

人間関係の論理

工学部 四年 床 嶋 俊 一

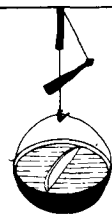
人間が生きていく限り人間との接触がありそれを避けて通ることはできない。言い換えれば、個人は人の渦の中で生活をしていると言うことができるであろう。人間関係は三通りの有様がある。それは、相手が敵か味方か無関係の人間かのどれかである。人はみな敵または無関係な人間、そして味方すなわち友をもつ。敵ばかり多くては自分という人間を現実から排してしまい易い。生きる上でどれだけ多くの友をもつかは重大な問題である。しかし、ただ多くの友をもてばよいとも言い切れない。多に越したことはないが、真実の友がどれだけいるかということの方が人生にとって肝要なことである。即ち真なる人間関係を如何に形成するのかという問題である。真なる人間関係とは、一体如何にあるべきなのだろうか。日常生活の中で何のくっつくもないおしゃべりをしていく。しかし、その中で幾人の人が真実の心の安らぎの場を見つけ出しているのだろうか。ともすれば、平面的に流れて快楽主義を楽しんでいるだけではないだろうか。そんなおしゃべりは結果的にむなしさの中に陥り、

後悔の念をかもし出すかといつて、日常性の中に真実がないわけではな何か不足しているのである。その欠乏している何かが我々をむなしさに追いやってしまうのである。自分が困っている時、その火の粉をかぶらないようにと自分のもたら去っていくその時、彼との関係は、一体何だったんだろうと考える。しかし、表面的な人間関係に代わって真なる人間関係を求めようとする出発が、そこから始まる普通親友の場合自分の心を打ち明けることができ、様々な問題を相談し合える友を言う。しかし、最終的に彼は私になり得ないし、私は彼になり得ないということを知る。外的社会の中にあつては、人間は孤独になり得ないのである。人間は個人として独立独歩であり、即ち人間は、自分の人生に対して自分で決断することを求めて来たわけである。単独者同志が交わるとき、そこにはなれ合いとかおもねりなどはない。そこに真の人間関係が誕生することになる。真の人間関係は、たやすくできるものではないが人間が生活していく上で必要不可欠なものである。



ろばた・居酒屋料理

庄三郎

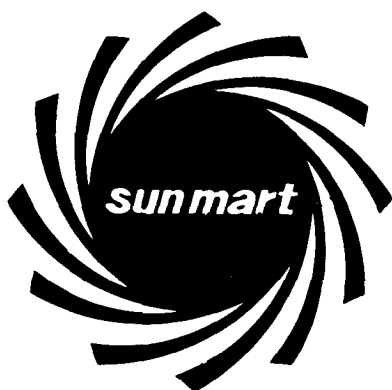
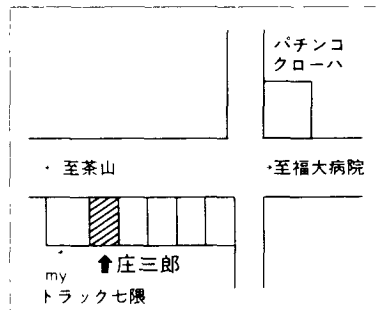


コンパ大歓迎!!(40名様まで)

861-3884

862-4112

営業時間 午後5時～午前1時



ニチイグループ

サンマート 七隈店

営業時間

あさ10:00～よる12:00

城南区七隈字末石

TEL 863-2969

生鮮食品

一般 //

日用家庭雑貨

太陽

大小宴会、パーティー
出来ます。

250名まで

福岡市博多区上呉服町
福岡開発ビル
(蓮池電停前)

BF ステーキハウス太陽
TEL 281-6955

喫茶・レストラン太陽
TEL 281-6955

メンバーズ
ロイヤルルーム

TEL 281-6951

麻雀ルーム太陽
TEL 281-6954

1F 居酒屋蓮池牧場
TEL 291-8089

2F 和食太陽
TEL 281-6957

麻雀太陽
TEL 281-6959

自転車・オートバイのことなら
まごころサービスで全力奉仕

武末商会

城南区飯倉1丁目ユニード荒江店前 TEL821-9407

焼とり

あかし

城南区田島四丁目17-18 (田島派出所斜前)

TEL (844) 3325

高級織物・各種タオル製品
印入タオル・白衣・贈答用品

檜垣タオル商事

福岡市城南区堤三七一六 TEL (861) 1010(代)

コンパOK!!

回転木馬

天神1-10-13(東急プラザ3F) TEL (713)-7966
(713)-7989

つくって売る店 **高級寝具専門店**

田中ふとん店

六本松大通りバス停前 ☎741-4786・731-0858

学生さんのアパート探しは

六本松地所

福岡市中央区谷1丁目13-1 (六本松バス停前)

TEL (771) 6859

〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃

部員の一言

“自分の信念”について

〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃
〃

商学部一年 松原 敏宏

素敵な先輩方とめぐり逢えて本当に良かったです。硬派「男松原」四年間頑張ります。

理学部一年 関 礼子

おちつきのある女子大生になるよう、書道を通じて、がんばりたいと思います。

経済学部一年 中川 敦江

素直で真面目な先輩を目指すことと、月刊ジャイアンツで柴田さんのサインを当てること……です。

経済学部一年 林田 一男

自分の完璧な書道をめざし、四年間着実にがんばります。

法学部一年 花田 智裕

福岡大学書道部に入部した以上は、諸先輩方の指導を守り、りっぱな字が書けるように努力します。

理学部一年 横溝 賢治

四年後、書道部に入ってよかったと思えるように精一杯頑張ります。そして、笑って四年間過ごします。

法学部一年 藤代 裕之

書道部員として、この一年間、どんなにつらかろうとも、頑張りぬくのみ！

工学部二年 江越 健二

人を信じて生きる事。

経済学部二年 石橋 正隆

力強く、やさしく、寛大に、よしガンバンべノ

経済学部二年 古埜 雅文

今の時期に思い切り自分の可能性を伸ばしていきたいノ多くの刺激を得ること。

法学部二年 鍋藤 利浩

「苦あれば楽あり、楽あれば苦あり」これこそが、人間の人生であると考える。

経済学部二年 安武 和宏

書道部の一員として恥じぬように、しっかりした人間になりたい。

法学部二年 豊田 隆昭

人は人らしく、自分は自分らしく、あくまでも自然に自然に生きてい。

商学部二年 田原 信秀

後をふりかえるばかりでは、何にもならない。つねに前向き姿勢で行きたい。くよくよせずノ

商学部二年 大場 満恵

たとえ自分が苦しかろうと、他人にはそんな顔を見せたくない。今年も笑顔でモットーにがんばります。

人文学部二年 貞苅 静香

初めての連落で大変苦労しています。今年作品作りがうまくなるように心がけます。

経済学部二年 市川 初江

私は、自分の考えを相手にきちんと、言える人間でありたいと思う。

法学部三年 坪 矢一 義

時間を大切にノ親を大切にノ友を大切にノ生きていこう

商学部三年 志岐 直樹

これからも「我何事にも後悔せず」の精神でノ

経済学部三年 津村 文彦

人それぞれ特性を持ち合わせている。それを人生に於いて如何なく活用出来るなら何んと幸福なことか。

法学部三年 柴田 直人

何事においても全力疾走ノ

経済学部三年 小田部 二三典

初志貫徹、いったん決めたら、それを貫き通す。それが私の信念である。

経済学部三年 内田 崇之

高価じゃないが、自分のプライドは大切にしてく。

工学部三年 山城 邦敬

いつも自分を飾らず、明るく、元気いっぱい、まじめブリッ子の三枚目でいよう。

経済学部三年 満 生 憲親

常に「完全燃焼」の心意気を!!

法学部三年 梅 崎 孝夫

時間のロスを最小限にとどめ、意義ある時が過ごせるように、努力すること、これが僕の信念である。

経済学部三年 江里口 吉光

論語に「匹夫もその志を奪うべからず」というものがあります。そのように強い意志をもった男になりたい。

経済学部三年 中 村 純一郎

今はもう三年生、一年生に負けぬよう気持ちだけでも若く生きよう。まだ青春、真中。

法学部三年 平 田 経子

先輩後輩に迷惑をかけないよう、おとなしくやりたいと思います。

法学部三年 大 宮 一

今年で二十歳になりました。今、自分の原点を探しています。

「初心忘るべからず……。」

法学部三年 鷲 崎 ゆみ子

何事にもベストを尽くすつもりです。

商学部三年 高 橋 福代

今年は、暇な時間を有意義に過ごしたいし、いつも心に余裕を持って生活をしたい。

工学部三年 西 口 公恵

人間であり、女であることを自覚して生きたい。自分にできることを一生懸命にすればよい、自分のためにも他人のためにも。

商学部三年 高 杉 素子

時間はいつの間にか過ぎていくけれど、しっかり考えて生きていきたい。

商学部三年 二 村 晁美

もっと大きく、強く、そして優しく!

商学部三年 松 山 理恵

いつも、素直でいたいと思っています。特に自分の心に対しては……。

法学部三年 簗原 千枝

時間に追われずに、時間を有効に使って、大いに大学生活を、*enjoy*したい。

商学部四年 丸田 俊和

一生懸命若づくりで徹している今日。やはり四年になったな一と思
う自分です。まだまだ頑張ります。

工学部四年 床嶋 俊一

苦悩、それは、人間を成長させる糧である。

法学部四年 城戸 信比古

Live and let Live. これで行こう!!

経済学部四年 濱田 清治

四年間の総決算、全てに於いて悔いなき大学生活であったと思える
様に……

経済学部四年 柊島 文子

自分の人生、悔いのないように。

人文学部四年 児玉 富美

鳥は鳥でもヤンバルクイナ。たとえ飛べなくても地面をかけずりま
わる姿は、いとおしく……。まさしく我が身はここにあり。

薬学部四年 佐藤 朋子

自分の回りには、いろんな物事があって、それぞれに、いろいろな
人間がいることを心にとめておきたい。

人文学部四年 渡辺 泰子

知・情・意・体の調和のとれた人間を目指す。

薬学部四年 天野 仁子

五月の風のように、さわやかに生きてゆきたいと思っています。

工学部四年 横山 佳代子

自分自身にこりかたまらぬよう自分をじっとみつめてゆきたい。

法学部四年 安倍 三紀子

マイペースとエレガンスを忘れずにいこう。

理学部四年 松藤 美津子

一日一日を大切にしっかり歩んで行きたいと思っています。

法学部四年 崎坂 真弓

思いやりのある人でいたいと思います。

人文学部四年 手島 玲子

たたけよ、さらば開かれん。求めよ、さらば与えられん。

日本の書道・三筆三蹟について

三筆

平安時代は、桓武天皇が京都へ都を定められた時（七九四）から始まったといえよう。しかし、奈良から遷都されたのは桓武天皇の熱心な努力によるものであるから、桓武天皇の即位の年（七八一）より平安時代と区分した。また、平安時代の終りは、平家が滅び政治の中心が鎌倉に移った元暦元年（一一八四）の約四〇二年間で区切ることにした。

この時代は四〇〇年の長期に渡るので書道史上でも、いろいろ変化が起っており、少なくとも五つの時期に分けることが専門的にはよいと思っているが、しかしここでは簡単に上期、中期、末期の三つに大別してみた。

上期は桓武天皇が即位された天応元年（七八一）から遣唐使が廃止された宇多天皇の御世までの寛平九年（八九七）までとする。この時代は、嵯峨天皇や空海（弘法大師）や橘逸勢（たちばなひさなせ）という後世、日本の三筆と謳われた有名な書き手が現われた、いわゆる三筆時代である。当時は未だ中国的な漢字が全盛であったが、それでも日本の環境から生じる日本的な感覚が必然的に表われたとも見られる。例えば伝逸勢筆の伊都内親王願文の激しいけれど軽快なリズム、器用な運筆法などは、それである。

私どもは嵯峨天皇筆と伝える李嶠詩集を天皇の筆ではなく唐人の筆であることを、この皮膚で感じ分けることができよう。日本人の表現の可能

な世界と中国人の表現の可能な世界とは、その時代時代で基本的な相違が、かなりはつきりしている。それがやがて、日本の文化が日本的に発達する宇多天皇の御世になると、書道においても「和様」と呼ばれる書風に発展したのである。

都が京都に移されてからは、人心や社会組織が一新されたために文化は局面を新たにして発展し、書道にもこの気分が映し出され、意力の逞しい書家が出てきたのである。

三筆にふれる前に最澄（伝教大師）を忘れてはならないであろう。最澄（七六七―八二二）は天台宗の開祖であり、奈良仏教に飽き足らず、宗家として多くの功績を遺した人だが、能書家でもあった。最澄の書としては久隔帖がある。これは泰範に空海への伝言を依頼した手紙だが、この書風は王羲之をよく習い、更に清麗な気分を加えている。従って、王羲之のように烈しく変化のある筆遣いではないが、嫌味のない、誠に高僧の書そのものといった風格を備えている。

空海

日本第一の書家といえば、空海（七七四―八三五）であろう。空海は真言宗の開祖、俗姓は佐伯氏といい、讃岐国（香川県）多度郡の生まれである。僧侶として非常に勉学に励んだ人で、法名を空海といい、死後に弘法大師の大師号を賜られた。延暦二三年（八〇四）最澄が入唐する

際、同行し仏教の勉強をしたのである。最澄は翌年帰朝したが、空海は留り、特に青竜寺の惠果えかという高僧に教えを受けた。帰国したのは大同元年（八〇六）一〇月二二日である。この時に持ち帰った多くの書物の中に書道の手本などが入っていた。弘仁七年（八一六）高野山に道場を開いてからなお一層、日本仏教界の柱と仰がれるようになり、天長五年（八一六）には、綜芸種智院しゆげいしゆちゐんという学校を設けるなど、いろいろな有益な仕事をこなした。

空海の書は、書の本場である中国にいた時から有名だったようである。彼は五本の筆を両手両足と口とに同時に持って書くほど達者であったので五筆和尚と呼ばれたという伝説があるが、これは篆、隸、楷、行、草の五書体を書きこなしたと解釈すべきであろう。また篆書、隸書などの手本を持っていたことから、いろいろな書体を勉強したことも分る。それに日本で書道のことを論じた書物を遺しているのは空海が最初の人である。性霊集しやうりやうしゅうという空海の文章を集めたものに、書のことがよく論じられている。

現在、空海の書で遺っているものうち、第一に掲げられるのは、風ふう信帖しんてふである。これは空海が最澄に宛てた手紙三通を一巻にしたもので、東寺が所蔵している。もとは五通あったが、一通は豊臣秀吉の養子秀次に所望され、一通は盗難にあつてしまった。遺っている三通の手紙によれば、王羲之の風を学び、しかもよく自分のものとし個性的な書風を表わしてはいますが日本第一といわれるだけのことはある。すなわち空海の書は、日本人には珍しくエネルギーが肉が厚く、堂々と雄大なものである。その点が中国的であり、また中国的であるために中国文化を崇拜していた当時の日本人から畏敬されたのであろう。

空海の書の中で一番若い時に書いたものは龔臂指帰くんてしきき二巻である。これは中国に行く前、延暦一六年（七九七）二六歳の時に書いたものであるが、調子の入った力強いもので、若い空海の燃えるような心持が躍動している書である。

在唐中に書いたものに、三十帖策子というのがある。これは三〇冊（もとはもう少しあったようである）のノートに經典を書写したもので、その中には空海以外の人の筆蹟も含まれているが、空海の楷、行、草、梵字ぼんじなどが多く入っていて、彼の書を研究するには貴重な資料である。また、この時に中国で五人の名僧の大きな画像をつくり、その僧侶の名号などの書入れをしている。そのなかに飛白ひはくという書き方を用いているが、元来この書法は中国で行なわれたものである。空海は疾風のように素晴らしく巧みに書いている。筆は楡のような平たい形をした木製のものを用いたようである。

帰朝してから、同じ形式で別に竜智・竜猛の二祖像を弘仁一二年（八二一）新たに加えたので、これを七祖像と称している。このほうの名号の飛白はさらに洗練されている。

空海の書として灌頂記かんじやうき、金剛般若経開題こんごうはんにやきやうかいだいを見逃すことはできない。その他にも空海の書には優れたものが遺っているが、空海が書いたといえは有難味がつくので、他人の書いたつまらぬものまでも、空海が書いたといっているのがあるから注意しなければなるまい。

晩年の書風を窺うものとしては、益田池碑またのいけのいしというのがある。これは空海の書いたものを模書したものしか遺っていないが、この中には篆、隸、楷、行、草の各体を大小混合して書いてあり、かなり奇古の風手ふうてを呈している書である。こうした書は、空海の真言密教という神秘的な宗

教的气氛を盛込んだもののように思われる。彼の書は確かに個性の強い作品であり、また飛白や益田池碑のような変わったものを書いてはいるが、ただこれらのすべてが彼の独創というのではなく、既に奈良時代からの、或いは当時の唐から受け継いだ要素も多かったと思われる。

嵯峨天皇

嵯峨天皇（七八六一―八四七）は、桓武天皇の第二皇子で神野と呼ばれ、幼少の頃より英才を顕わした。天皇は漢詩文を好み、凌雲集、文華秀麗集の勅撰をされている。また書道や詩文に優れていた空海と親交が深かったようである。

天皇の能書については、性霊集や日本後紀にも記され、物語として書かれたものに古今著聞集などがあるが、時の天皇がたの中でも特に優れていた。

真筆としては延暦寺所蔵の光定戒牒がある。弘仁一四年（八二二）三七歳の時に書かれたものだが、実に立派な書である。書風は力強く、雄大な気分が満ちているが、空海の書を彷彿とさせるところがある。唐の太宗の温泉銘と、我が国の嵯峨天皇の光定戒牒とは、帝王の書かれた名筆として有名である。また、最澄が入滅した際に詠んだ哭澄上人詩も双鉤填墨でなく自筆と考えられ、これも堂々たる風格がある。

天皇の書かれたものとして、他に有名なのは李嶠詩集がある。中国の詩人、李嶠の詩集を書いた巻物であり、唐の欧陽詢（五五七―六四一）の行書に似た書風で、鋭く険しい感じの名筆であるが、天皇の真筆とは認め難いのである。

橘逸勢

延暦二三年（八〇四）二七、八歳の頃に、空海と同時に留学生として

入唐した。在唐中に空海は、逸勢の学費が不足して苦しんでいると日本へ援助を要請しているから、お互いに親しい間柄であったとみえる。帰朝は空海と一緒にである。文徳実録によれば、細節にこだわらず、最も書に巧みであったと記している。夜鶴庭訓抄にも、文徳実録にも宮殿の額を書いた名人として掲げているから、当時の代表的な能書家であったに違いない。承和九年（八四二）謀叛の疑いで伊豆へ流刑される途中に病死した。歿したのは六〇歳ぐらいだったといわれるが、正確なことは分らない。

橘逸勢の筆蹟と伝えられているのは、伊都内親王願文である。しかし願文に逸勢の署名は見えないので、果して真筆かどうかは定かでない。ただ願文の書かれた天長一〇年（八三三）は逸勢の在世中であり、その書風は文徳実録の記事を裏書きするような、大胆にして天馬空を行く感がある。その上、中国で書を習った人でなければとても書けないような筆の使い方（俯仰法）が、実に巧みに用いられているから、一概に逸勢の書ではないともいえないようである。日本に数多くある名筆の中で、筆をこれほど駆使した作品はないといって過言ではあるまい。

この時代には、淳和天皇、仁明天皇、藤原閑雄、小野篁など能筆を以て聞えた人が多くいたが、閑雄と推測されるものだけがあり、他の筆蹟は遺っていない。しかし円珍が開山した園城寺に文書が多く遺っているが、このなかに三筆が世を去った貞観（八五九―八六七）の年号を中心とした時代のものがある。したがって当時の書風の有様が理解できる。なかで珍しいのは、貞観九年（八六七）に有年が書いた仮名混りの手紙があり、これは仮名らしい字体を用いた最古の資料として注目されている。また、三聚浄戒示には伊都内親王願文の系列の書風があり、円珍の

書も枯枝を交えて響かしているような、今日から見るととてもモダンな興味深い書である。

藤原敏行(九〇一歿)は、この時代区分では中期の初めに卒しているが、活動した実年代は宇多天皇の御世である。漢詩、和歌の両道に優れ、且つ書手として当代の雄であった。肉筆は遺っていないが、貞観一七年(八七五)の年号を有す神護寺鐘銘がある。清勁で力強い書風であるが、特に「和様」の感じは主張されていない。敏行は自作の和歌を四季絵の屏風などに書いているから、漢字、仮名ともに達者だったのであろう。しかしまだ「和様」の樹立には間があったと想像されるのである。

三 蹟

日本の書道が、その国民性を著しく発揮し始めたのは、道風・佐理・行成の三蹟の時代である。前の三筆時代には、末だ中国崇拜の風潮が強かったが、この平安中期ごろになると中国の国情も不穏になり、文化も停滞してきた。長期に渡って中国文化を輸入した日本も、敢て困難の多い遣唐使派遣を強行する必要がなくなった。菅原道真の進言によって聖徳太子の時代から引続いた遣唐使を廃止したのは宇多天皇の御世(八八―八九七)のことである。

中国文化の頽廃による輸入打ち切りで、外から刺激がなくなったことにもよるが、この前後から日本式文化が発達してきた。しかしそれは必ずしも中国文化の輸入がとれたからという理由ばかりでなく、すでに日本は久しく中国文化を踏まえて高度の発達をしており、人心が文化の時代転換を欲していたと考えられる。

天皇の命により詩歌、文章を撰し編集したものを勅撰集というが、それまでの勅撰集は漢詩文ばかりであったのが、醍醐天皇の延喜五年

(九〇五)初めて和歌の勅撰集である古今和歌集が成ったのである。奈良時代に萬葉集が編纂されて以来、久しく表向きの文学として取扱いを受けていなかった和歌が、ここで再び陽の目を見始めたことになる。古今集撰集より先立ち、宇多天皇がしばしば歌合を主宰しておることなどは、時代の趨勢を物語っている。こうした純日本文化の創造の機運が昂揚するにつれ、漢字書道は和様という、中国書道とは異なった優雅な美しさを表現し、また女手おんなてとよぶ国語をそのまま表記する仮名が発展に向かったのである。

小野道風

「和様」という日本式な書風を最初に書き出した書家は、日本三蹟の一人、小野道風ののちかぜ(後に「とうふう」と音読される)である。道風は、その生存中にも当代第一の書家として尊敬された人であり、日本書道史上、空海と並び称されるほどの名声は、単に能書家であったばかりでなく、「和様」の書風を創始したからでもあろう。このような名人の道風の位は、正四位下で決して高いものではなかった。いかに優れた芸術家であっても官途は別だったといえよう。日本紀略は、康保三年(九六六)一月二日に七一歳で薨去したとあるが、年齢については二つの理由から私は七三歳で歿したとするのを妥当とする。道風の筆蹟は、小野の「野」と「筆蹟」とを合せて野蹟ののせきと呼ばれている。

「和様」の書風とは、中国の書道より柔軟で温和な感じを与え、険しくなく豊潤に、人の心を和ませてくれる美しさを備えているものである。日本は島国で、四季の風光が微妙に変化し、恵まれた自然美を愉しめる環境が、自ずとこうした氣質を日本人に植えつけたと思われる。この氣質の特徴は、中国書道崇拜の時代にも自然には発揮されていたが、ただ

積極的に表現されなかった。しかし、醍醐天皇の御世頃から、従来の外国文化に惹かれた眼を自国の文化凝視へと振替えられたため、すべてが日本式となったといえよう。

「和様」の書風を樹立した道風は、当時の人々に大変持てはやされたようである。江談抄に「天曆の御時、小野道風と大江朝綱は手書について争論を行ひ、主上の御判で優劣を決めやうとした。主上は朝綱の書の道風に劣ること、譬へば道風の朝綱の才に劣るが如しと仰せられた」と記している。学者として著名であった大江朝綱（八八六―九五七）の真蹟に紀家集があるが、これは「唐様」で書かれている。朝綱が道風と手蹟の争いをして村上天皇の御判を乞うたとあるのは、単なる上手下手ではなく、朝綱の「唐様」と道風の「和様」の争いとも見られよう。

天徳三年（九五九）八月一六日、天皇が催される詩合（左右に分れて詩をつくり優劣を争う）の清書は、元来左方、右方と別人でなければいけないのに、両方で小野道風に依頼したのである。そして、双方とも引く気配がなく困り果てた道風は、家人に「物忌」があるからといって断ったのである。ところがその前日の朝、右方の延光ら三人が強いて道風家の門を開け家内に突入し、無理やり道風を車に乗せ、枇杷家まで連れ出してしまい、酒盛りを始めたのである。道風は根が酒好きだったので、やがていい機嫌になり清書をしてしまった。この次第が伝わると左方が黙っているはずがなく、早速天皇に言上して、天皇から左方にも清書するようにと勅をいただき、喜び勇んで道風の宅に参り、夜を明して酒を呑み続け、一六日の朝参内して、改めて左方の清書もしたと伝えられている。

道風の書いたもので現在遺っているのは、屏風土代、智証大師賜号勅

書、玉泉帖などである。仮名では、継色紙が道風の書いたものである。その推論は省略する。

藤原佐理

藤原佐理（後に「さり」と音読される）は、小野宮実頼の孫、少将敦敏の子で名門の出であったから、正三位まで昇り、長徳四年（九九八）に五五歳で薨じた。佐理が右近少将であった二六歳の時に書いた詩懐紙というのが遺っているが、実に優れた書で道風の和様が更によく磨かれている。佐理の書を、佐蹟というのは名の一字をとったのである。

佐理の書は才筆とも、芸術的ともいわれ、非常に筆が上手に遣いこなされている。むしろ「巧み」という点では、道風や行成よりも優れているといってもいいであろう。彼の書いた手紙が五通遺っているが、その自由な用筆法は驚嘆するばかりである。そのうちの離落帖と呼ばれるものは、豪快な唐様の書風であり、国申文帖は清流の曲折を見るように、仮名の線にも相通じた美しい書風である。

佐理の人柄については、むら気であったため、失態が多かったので、しまりのない人と非難されている。しかし書を見ると決してだらしないものでなく、精鋭で変化に富んでいる。行成のように温厚で要領のよい人と違い、余程芸術家肌の人であったようである。遺っている五通の手紙が人々への詫び状や、不遇な身を訴えているものなどがあるのも、そんな人柄が偲ばれて興味深く思われる。

道風のあとに続いた名人としては、第一に佐理、次に行成が挙げられるが、当時には兼明親王（九一四―九八七）など、書の名人上手といわれる人は多くいたのである。

藤原行成

藤原行成（後に「こうぜい」と音読される）は摂政伊尹の孫であったが、父の少将義孝があまり地位に恵まれなかったので、出世し難い立場にいたにも拘らず才気を發揮し、時の関白藤原道長の寵をうけ、正二位権大納言にまで累進した人である。万寿四年（一一〇二）二月四日、五六歳で薨じた。三蹟の中では最高の地位に昇った人でもある。行成の書を権蹟と呼ぶのは、権大納言の「権」と筆蹟の「蹟」とを合せたものである。

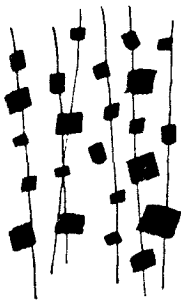
行成の書は優雅で人好きのする「和様」であったから、生存中から当代第一の名人として尊敬をうけていた。行成の書風は後世ながらく手本として用いたので、平安時代の書は殆んど行成流を学び、行成の家は、その子孫が書の家として宮中に職の位置を占めていた。この書の流派を後代世尊寺流というのは、行成家の菩提寺の名に由来している。

なお書の家といっても流祖の行成以後、平安末期までの代々の当主は、単に行成の書を真似たのではなく、行成の書風を土台として各自個性を生かした優れた書を遺している。ことに三代伊房、四代定実には真筆と推定されるものがあり、五代定信、六代伊行の署名のある筆蹟もある。総じて見るならば、伊房、定実、定信は傑出した作家と認められるが、鎌倉中期頃からは、家柄のみ誇り、書風が画一的になり俗な書になったようである。

行成の書には、漢字の真筆はあるが、仮名には確かなものは遺っていない。関戸本古今集や、大字朗詠集なども、伝承筆者として行成をあげているが、真実の筆者とは認め難い。

行成の漢字の中で、第一に優れているのは、高松家旧蔵の白楽天詩巻

である。これは白楽天の詩を書いた巻物で、寛仁二年（一一〇一）八月二日に書写したとあるが、行成の署名はない。しかしこの巻物の奥書に行成より五代目にあたる藤原定信が、流祖行成四七歳の書であると証明している。その他行成には手紙が一通遺っているが、実に落着いて丹念に書き、佐理のように一気に書きまくったという粗雑なものではない。しかも文面も行成がいかにも恵まれた環境にいたかを物語っている。本能寺切、益田家旧蔵白楽天詩巻（後嵯峨院本とはこの分割されたもの）、白氏文集切、定文章案などは彼の真筆とみてよいものである。



第二十二代役員年間行事

七隈祭（五十六年十月二十九日～十一月三日）

今年も、作品を各自二点以上出品し、講師、OBの方々の作品も加わり、広く対外的に書道部の作品をアピール出来た。今回は、市中パレードのかわりに、学内で追い山が行なわれたが、一年生、四年生のチームワークにより、みごとベストタイム賞の栄冠に輝いた。バザーでは、名物うどんを中心に、肉まん、あんまん、ラムネ、ドーナツを販売し、呼び込み、調理に部員全体一丸となつて協力し合い、そのかいあつて、大盛況の内に終つた。

クリスマスパーティー（五十六年十二月十九日 於太陽）

四年生先輩方の「ザ・モーセンズ」をはじめ、部員の歌や演奏、カラオケ歌合戦、前もつて決めてあつたベアーでのチークダンス、全員でのディスコなど、五十六年の行事をしめくくるのにふさわしく華やかに行なわれた。

連盟リーダーズトレーニングキャンプ

各大学書道部の中心となる新役員養成のために行なわれた。今年も、雪が、ひとかけらもなく、例年とは一味ちがつたリーキャンとなつたが討論は真剣そのものであつた。

卒業生パーティー（五十七年一月六日 於ガーデンパレス）

連盟の卒業生の労をねぎらう為に行なわれた。

卒業生追出しコンパ（五十七年二月十一日 於高砂）

四年間書道部で活躍されてこられた先輩方の労をねぎらい開かれた。在校生からは、記念品が、また、卒業生からは、書道部表札が贈られた。

春季合宿（五十七年二月十六日～二十日 於江田島青年の家）

討論中心の合宿であるが、討論内容は、例年とは趣向を変えて、「集団の心理」という本を、部員全員で読み、その中より題材をぬき出し、組織について討論をし、さらにそれを、大学生活や、サークル活動や、日常の生活に、あてはめて見て、自分自身を見つめなおし、今後の方向性を、見い出して行つた。カッター訓練、班別対抗バレーボール大会などのような体で得たものにも、すばらしいものがあつた。

新入生勧誘週間（五十七年四月十四日～二十日）

学内を行き来する、新入生を、二年生が中心となり、勧誘を行なつた。その結果、男子六名、女子六名の新入部員が誕生した。

新入生歓迎コンパ（五十七年五月八日 於平和楼）

小西部長を始め、歴代OBの方々を迎え、これから書道部の仲間入りをする新入生の前途を祝して行なわれた。新入生は、大学での最初のコンパの雰囲気、酒の味を十分に満喫した。

連盟展（五十七年五月二十五日～三十日 於県文化会館）

福書連の書活動発表の最大の場である。また、地域社会へのアピールとなり、連盟員各々の書活動の糧となった。

連盟親睦会（五十七年六月六日 於雁ノ巣レクリエーションセンター）

広々とした草原の中、弁当食べ、班別対抗ゲームや、フォークダンスなどを他大学の人達といっしょに行い、新入生を中心に交友は深まった。

学術文化発表週間（五十七年六月二十一日～二十六日

於一号館ロビー及び階段）

新入生は九成宮、蘭亭序の臨書作品、二年生以上は半折を中心に臨書あるいは創作作品を展示した。また、中国古典の書道年表も作って、好評であった。

夏季合宿（五十七年七月十三日～十七日 於宮地嶽神社）

書技の向上を最大の目的とし、四泊五日の規律正しい生活スケジュールの中、寝食を共にし、各自がはつきりした目標をもち、心身共に自身に打ち勝つように努力するものである。練習内容も、早書きや、半紙練習などを織りまぜてより充実したものになった。

県展合宿（五十七年七月十九日～二十四日 於学而会館）

県展を目指す者の為の県展作品養成の合宿である。これまで多くの先輩方が入選されてきた。今年も多数の参加者を望む。

鍊成会（五十七年七月二十七日～三十一日 於英彦山青年の家）

英彦山のすばらしい自然環境のもと、青年の家の規律正しい生活の中で、連盟員の親睦融和、書技向上を目ざして行なわれる。他大学の書風を知り、交流を深める良い機会である。

役員 改選

第二十三代として書道部を運営していく役員を選出する。

西日本高等学校揮毫大会（五十七年十一月十四日 於第一記念会堂）

西日本地域の高校生を対象に、高等学校の書道文化の普及と書技向上を目的として、毎年行なわれている。高校生の側からも最大の目標とされているこの大会を、部活動の集大成として、部員一同、一丸となって二十二回大会を益々充実した大会にしようではないか。





昭和56年度夏季合宿（於宮地嶽神社）



昭和57年春季合宿（於 広島県江田島青年の家）

厚生大臣指定校

福岡調理師専門学校



今か決断の時、資格はいざかい。
スベシヤリストにあなたも!!

昼間

◆定員.....150名

夜間

◆定員.....50名

◆修業年限.....1カ年(昼)
1カ年半(夜)

◆入学期.....四月

◆国家試験不要 調理師免許授与

◆入学資格: 中卒以上、男女年齢不問

◆他に茶懐石科・喫茶スナック科

家庭料理科もあります。

※就職及びアルバイトのお世話致します

◆入学案内は左記へ◆

学校法人 福岡家政学園

〒810 福岡市中央区天神3丁目6-35

〈タイエーノノハーズより西方に歩いて1分〉

☎092(761)6155(代)

運転免許取得の早道



本部 福岡市中央区渡辺通2丁目4番20号 パール福岡405号
株式会社ドライバースクール ☎731-3421
新宮コース 粕屋郡新宮町上ノ府 ☎09296(3)0848

アパートのことなら

鹿島不動産

城南区神松寺3丁目8-12 TEL801-1157

家庭用品、建築金物、硝子器、陶器他

義 大穂金物店

福岡市城南区友丘二丁目2-40友泉第二バス停横
TEL 871-0251

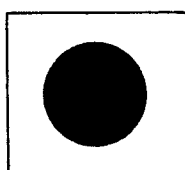
お食事処

新(あらた)

福大前 定休日 水曜日

旗・幕・のぼり
宣伝・部会旗

懸垂幕・大売出し幟・紅白幕
組合旗・腕章・船旗・のれん
ハッピータオル・他印入一式



《印入染元》信頼される…優れた技術!!

市川染工

染

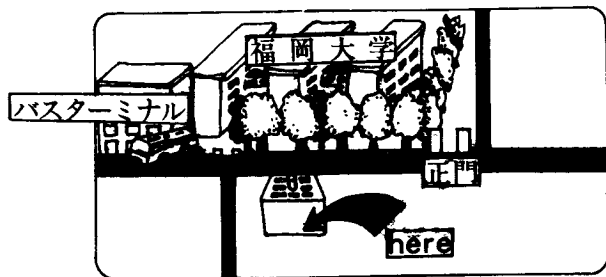
- 福岡市中央区港2丁目 地下鉄大濠駅より港へ
- 電話 福岡(092) **741-8309**

IN FRONT OF FUKUOKA UNIVERSITY

プレイガイド

会員募集(無料)会員の方はすべて割引しています。

福大前プレイガイドCMPは大学生活をエンジョイする君たちのサービス・ステーションとして誕生旅行・DED・レンタカー・コンタクト・印刷・コピー貸本・古本・チケット販売・貸カメラ・乗馬クラブ・小物販売などなど…ワイワイガヤガヤ講義以外のことならCMPでOK。安さと行き届いたサービスのCMPへどうぞ。



福大前プレイガイド



中ノ子ビル2F

☎863-3138

祝 第23号「荒鷲」

男なら力を!!焼とり権兵衛

◎第18号 権兵衛館(70人様収容)

大名小学校正門前 でんわ714-2296

◎第21号 権兵衛館てんじん(150人様収容)

天神3丁目天神横丁 でんわ761-2684

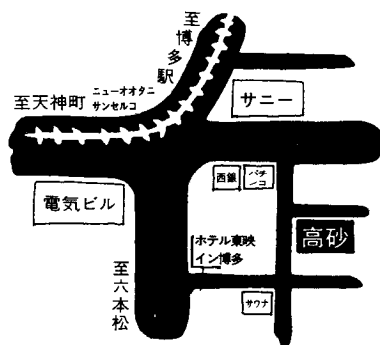
おついでの際には最寄りの焼とり権兵衛にお立ち寄り下さい。



大小宴会、コンパ、ご商談等にお気軽にご利用下さい。

〒810 福岡市中央区高砂1丁目4-14

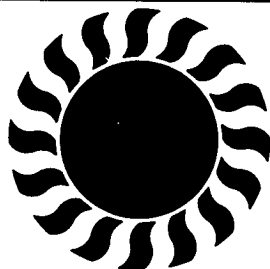
TEL (531) 3500-0140



鈴木自動車工業(株)副代理店
スズキ二輪四輪、ホンダ二輪販売修理

斉藤モーターズ

福岡市早良区野芥929-14 TEL (871)1669



「新鮮」「安さ」「豊富さ」を追求しています。

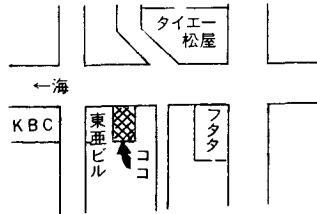
サニー 片江店

TEL 801-7151

営業時間：朝10:00～夜8:00(6月1日～8月17日)



ビートルズ
サウンドが聞ける店



パーティー・コンパ
5名～60名迄ご予約できます
貸切パーティーOK

〒810 福岡市中央区天神3丁目10-32
ロゼ天神ビル1F

☎713-5693

COFFEE & PUB

リバプール

焼鳥・炉端 大将

城南区大字片江倉瀬戸129-5 TEL863-9958

額・表装一式

菊池晚香堂

〒810 福岡市中央区六本松3丁目12-24

TEL (092) 741-0897

和洋酒類・飲料水・たばこ・切手

ちょう や

蝶屋酒店

福岡市城南区片江・TEL (092)871-5258

コンパ、宴会、50名までOK

焼とり
炉ばた焼

徳川

福岡市城南区長尾1丁目油山観光道路
TEL 871-0961

コーヒー&ランチ

きらくな横丁

七隈 ☎871-3244

営業12:00PM~12:00AM

大小宴会場

割烹大仙

天神店 中央区天神二丁目(NHK隣り)
TEL(721) 0086
はかた店 博多区博多駅東2丁目4
TEL(411) 7600

有限会社

高田住宅

〒814-01 福岡市城南区片江1577-8

味自慢 御かまぼこ

上田蒲鉾店

福岡市中央区六本松 電話 (741)7109

生鮮食料品・一般食品・日用雑貨



寿屋Kコンビ 長尾店

AM10:00~PM11:00

西区長尾1-16-20 TEL092-862-4115

額縁・表装 萬年堂

福岡市城南区鳥飼4丁目1-39
TEL 821-7767

「学割あります」 グリーンレンタカー

福岡市中央区六本松3丁目8の5
TEL (761) 7325

襖・表具・材料一式

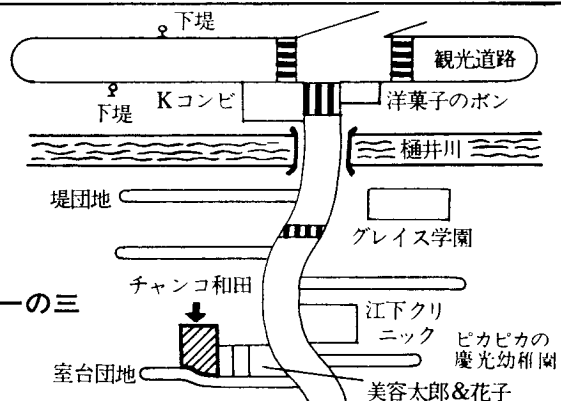
株式会社 GS タカハシ

福岡市中央区天神3丁目10番10号
TEL (741) 3231(代)

チャンコ和田

大小宴会できます
ちゃんこ鍋1人前900円

於 福岡市城南区樋井川四丁目三十一の三
電話 092-862-1012



福岡大学学術文化部会書道部

△規 約▽

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行なう。

- 一、書道に関する事業
- 一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行
- 一、関係団体との親睦ならびに連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成のため必要と認めた事業

第二章 組 織

第四条 本部は講師及び部長各一名を置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

- 一、役員会
- 一、部員総会

一、O・B会、但しO・B会規約は別に定める。

第三章 役員 会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条 本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条 本会は幹事によって召集され代表される。

第十条 本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条 本会の議決は、部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員総会

第十二条 本会は本部の最高議決機関である。

第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条 本会は必要に応じてこれを開き、幹事がこれを召集する。

第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼務する。

第十六条

- 一、本会には部員の過半数を以って成立する。

一、本部会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。

但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十七条

本部会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成を以って仮議決することができる。但し、

一、仮議決については事後部員総会に於いて過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することはできない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。

第十九条 第三条につき、外部関係諸団体へ役員を派遣することができる。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行なう。

但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異つても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

但し、役員改選後、翌年三月三十一日までは代行期間とし、その責任は新旧役員の間連帯責任とする。

尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行なう。

第二十四条

役員改選は次の通りである。

一、幹事は部務を処理し、部を統括する。

又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。

一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する収支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそつて諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行ない、資料の徴収保管をなし、機関誌の発行を行なう。

但し、機関誌の発行は年一回とする。

一、第五章第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費及びその他の所定納入金については、前年度末

に部会に於いて決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行なう。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部に於ける選挙権、被選挙を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条 本部の部員は次の義務を負う。

一、部員は部員総会に出席すること。

但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。

一、部員は部員その他の所定納入金を定期的に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

入金を完納する。

第十章 罰 則

第三十二条

書道を研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者。又、部の秩序を乱す者は部より除名する。

但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

第三十三条

本部規約改正の発議は部員総会に於いて部員の四分の一の同意により総会の議決を経て行なわれる。

尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要とし、その出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附 則

附 一 本規約は、昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日

改正。

第九章 入部・退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金納入を以って部員とする。

第三十一条 本部の退部は書面を以って幹事に願ひ出て、役員会の承認を得、部員に通達する。

但し、退部を希望する者は、その在籍期間までの所定の納

福岡大学書心会
規約

第一章 総 則

第一条 本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第二条 本会は事務室（本部）を福岡大学書道部に置く。

第三条 本会は支部を置くことができる。

第二章 目的及び事業

第四条 本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ない、以って斯道に貢献する事を目的とする。

第五条 本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。

- 一、書道の振興に関する事業
- 一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行
- 一、関係諸団体との親睦及び連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、其の他前条目的達成の為必要と認めた事業

第三章 組 織

第六条 本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者を以って構成する。但し強制するものではない。

第七条 本会に総会、評議委員会を置く。

第四章 役 員

第八条 本会は次の各号の役員を置く。

- 一、会長（一名）
- 一、副会長（一名）
- 一、評議委員長（一名）
- 一、副評議委員長（二名以内）（会計兼務）
- 一、評議委員（原則として各代一名とする）

第五章 役員 の 職 務

第九条 本会の役員は次の職務を行なう。

- 一、会長は本会を統轄し、且つこれを代表する。
 - 一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
 - 一、評議委員長は、評議委員会を統轄し、且つこれを代表する。
 - 一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時はその職務を代行する。
 - 一、評議委員は書心会の企画、立案にあたる。
- 第十条 役員 の 任期は二年間とし、定例総会に於いて選考するものとする。

戦国焼鳥発祥の地

焼鳥
戦国

家康

コンパは都心で
天神に四店・博多駅前・西鉄久留米駅前
博多中洲・赤坂門他箱崎二十一号まで

予約受付 家康本部 851-0061 代表

吉相印・ゴム印・名刺・はがき

草香江印章

〒810 福岡市中央区草香江2丁目9-1 TEL(714)7911

各種ガクブチ・絵画掛軸・表装

額 縁 サ カ タ

〒814 福岡市早良区干隈117-1 第二宗ビル111号
電話 (092) 863-5388

コンパ歓迎

割烹 幾 永 (100名様収容)

福岡市中央区天神1丁目13-13 勧銀横 (福大卒業生の店)
TEL (751) 1004

スチール家具・事務機・事務用品・D.E.P.

(株) 香文堂

福岡市南区大楠1丁目34-21 (日赤前)
〒815 TEL (092) 522-7141(代)

★★★ 編集後記 ★★★

秋の色が日増しに濃くなりました。本年をもちまして「書心・荒鷺」も第十一号書心、第二十二号荒鷺を迎えました。

この書心・荒鷺を発刊するにあたり、OB諸先輩方より御投稿頂き、また部員も広告収集に活躍して、一層この書心・荒鷺が、OB諸先輩方、我々部員にとりまして身近なものになりましたなら、発行責任者としてこの上もない慶びです。この書心荒鷺をまた今後の糧として利用されることを期待しております。

尚、最後になりましたがこの書心・荒鷺を発刊するにあたり、御協力頂きました。諸先生方並びに、OB諸先輩方、関係諸氏の方々に對しまして、紙面ではございますが、心より御礼申し上げます。

「第十二号書心・第二十三号荒鷺」

「書心・荒鷺」

福岡大学学術文化部会書道部機関誌

昭和五十七年九月発行

発行責任者 志 岐 直 樹

編集責任者 小田部 二三典
山城 邦 敬

発行所 福岡大学学術文化部会書道部

〒八二四一〇一 福岡市城南区七隈十一

電話 八七一〇四七二

印刷所 川 島 弘 文 社

〒八二二 福岡市東区箱崎ふ頭六丁目四ノ四

電話 六四一―二六六五